前橋市における美術館構想 プレイベントの記録







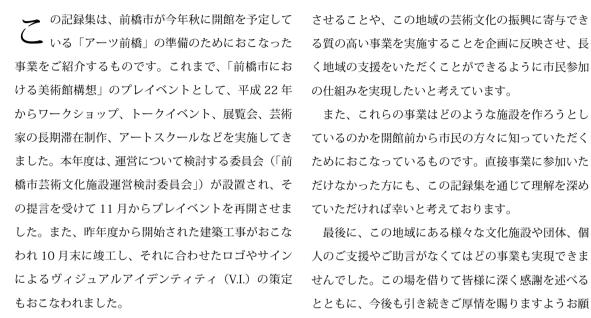






アーツ前橋





これからの開館準備において、近年の芸術文化への 関心の高まりを考慮し、その多様な関心を運営に反映

させることや、この地域の芸術文化の振興に寄与でき る質の高い事業を実施することを企画に反映させ、長 く地域の支援をいただくことができるように市民参加 の仕組みを実現したいと考えています。

また、これらの事業はどのような施設を作ろうとし ているのかを開館前から市民の方々に知っていただく ためにおこなっているものです。直接事業に参加いた だけなかった方にも、この記録集を通じて理解を深め ていただければ幸いと考えております。

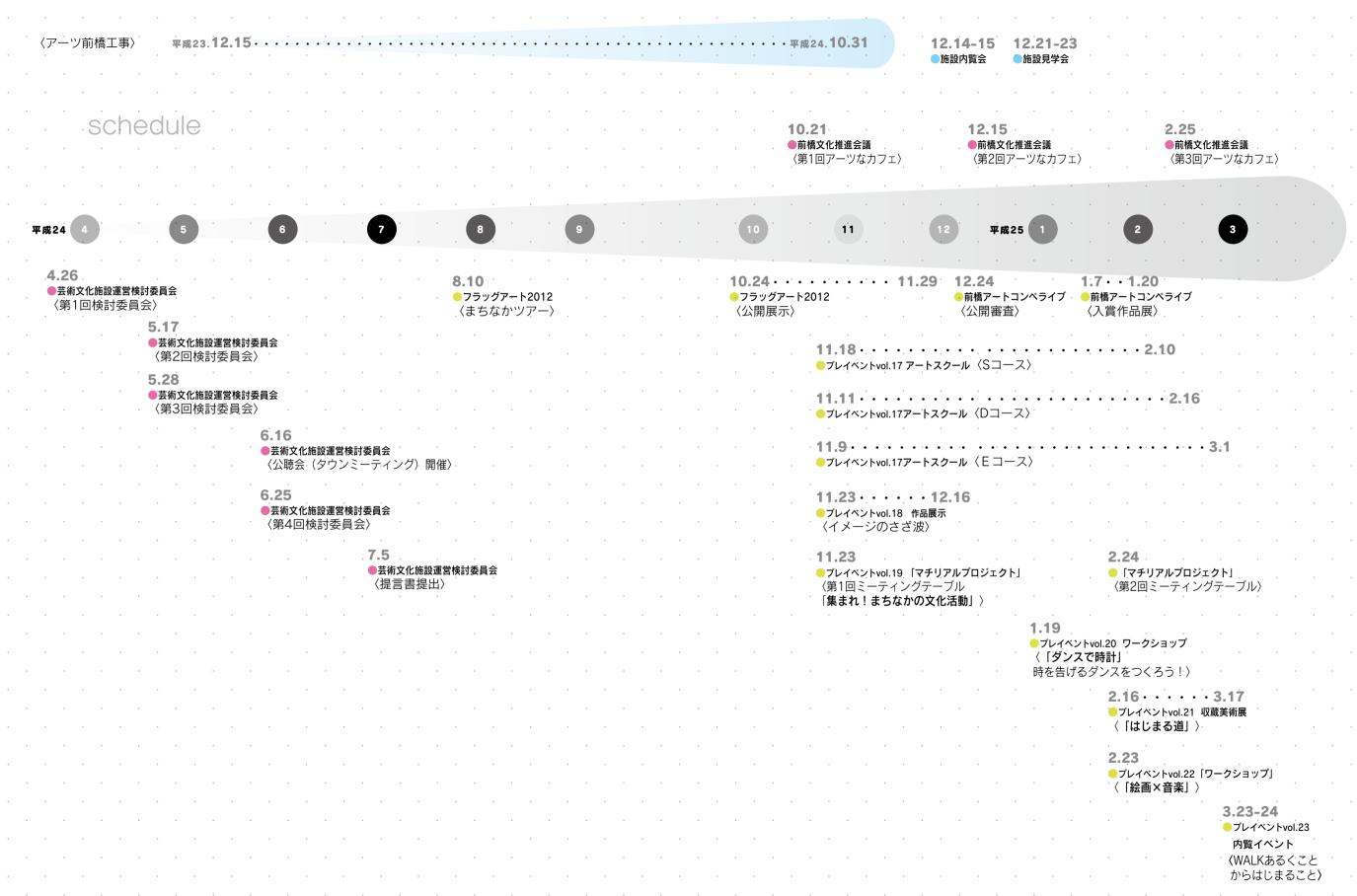
最後に、この地域にある様々な文化施設や団体、個 人のご支援やご助言がなくてはどの事業も実現できま とともに、今後も引き続きご厚情を賜りますようお願 い申し上げます。

> 平成 25 年 3 月 前橋市文化国際課芸術文化推進室

# contents-map · ごあいさつ・・・・ [P3] · 目次/contents····[P4-5] ・年間スケジュール/schedule・・・・[P6-7] 市民参加 前橋市芸術文化施設運営検討委員会 ●スケジュール、委員、概要 ···· [P74─75] ●スケジュール、委員、ブンスイとは ···· [P76] 前橋文化推進会議 ●営検討委員会·文化推進会議合同座談会 ···· [P77-88] ●アーツな力フェ···· [P84·86·88] 市民の声 ●出品目録 ···· [P90] ●地図 ···· [P91] 資料編 ●新聞記事リスト ···· [P92-93] ●イベント参加者数 ···· [P94-95]

●関係者一覧/奥付 ···· [P96]

(プレイベントvol.17) ●アートスクール **D** ···· [P10—13] スクール • アートスクール **E** ···· [P14—17] ●アートスクール **S** ···· [P18—21] ●イメージのさざ波 (プレイベントvol.18) ···· [P22-25] 展示 ●収蔵美術展 はじまる道 (プレイベントvol.21) ···· [P32-33] ダンスで時計 (プレイベントvol.20) ワークショップ ●絵画×音楽 (プレイベントvol.22) ···· [P34-35] ●マチリアルプロジェクト (プレイベントvol.19) ···· [P26—29] 地域アートプロジェクト ガーデニング プロジェクト ···· [P36─37] ●ダイニング プロジェクト · · · · [P38—39] ●前橋アートコンペライブ ···· [P40-43] ●フラッグアート ···· [P44—45] ●彫刻1,000体ツクルンジャー ···· [P48-49] ●市民活動拠点ミニギャラリー千代田 ···· [v50-51] ●施設内覧会 ···· [P46—47] ●内覧イベント (プレイベントvol.23) ···· [P52—55] ●アーツ前橋 建築デザインの概要····[P58-59] ●VIについて···· [P60—61] →建築経過····[P62—63] 建築・VI ●建築⇒デザインメール対談 ··· [P64-65] ●アーツ前橋1F/B1 ···· [P66—69] ●工事概要 ···· [P70-71]





- ●アートスクールDコース
- アートスクールEコース。
- ●アートスクールSコース
- ●作品展示「イメージのさざ波」
- ●収蔵美術展「はじまる道」
- ●ワークショップ「ダンスで時計」
- ●ワークショップ「絵画×音楽」
- ●地域アートプロジェクト・ マチリアルプロジェクト ガーデニングプロジェクト ダイニングプロジェクト

- ●フラッグアート
- ●アートコンペライブ 2012.
- 施設内覧会
- ●彫刻 1,000 体ツクルンジャー
- ●市民活動拠点 [ミニギャラリー千代田]
- ●内覧イベント

イベントを行ってきました。

本年度のアートスクールでは、より実践的な形で関わっ ていただくため、情報発信、アーカイヴ、サポーター 養成といったコースが開講されました。展示では、過 去の収蔵作品などを主軸にしながらも、今日的なテー

·前橋市では、アーツ前橋の開館前からさまざまなプレ ジデンス (芸術家の長期滞在制作) 事業での成果を紹 介したり、街や音楽表現と連携をとる試みがなされて います。<sup>\*</sup>

> また、身体表現をとりいれるワークショップや、街中 でのさまざまな文化的な活動を喚起する試みにも取り 組んでいます。食やガーデニングといった生活文化に も、創造的なアプローチで取り組みはじめています。

## art school Da-z

## マエバシ文化発信局

「あなたの記事が、みんなの未来をつくります」



## [zine 『うしろあるき』ができるまで]

- 1. まずは発信の先端のにいる人たちからのレクチャー Dコースでは、発信の先端にいる人たちから、
- ●メディアの特性や、さまざまなメディアの紹介
- ●地域の魅力をどうやって見つけて発信していくか
- ●記事の作り方、写真の撮り方
  などを学びました。

#### 2. Facebook、twitterでの受講者たちの取り組み

Dコースを進めていくにあたり、Facebookのグループ機能で積極的に意見交換し、また、レクチャーをtwitterで中継したりもしました。

#### 3. Facebook うしろまえばし大反響

Facebook ページ「うしろまえばし」を開設し、大反響がおこりました。 5 カ月間で 278 人のいいねを獲得。 一番人気の投稿は 1,018 人に表示されました。

前橋に住んでいる多くの人たちから、コメントが寄せられ、前橋市内のさまざまなポイントについて熱いやりとりがかわされました。



ビオトープを見つけ出す漁師のような情報発信者のイメージ。前橋文化推進会議@fukunny http://t.co/V AfELSIM

MaeBunsui 2012-11-11 14:13:05



江口さん、ちょっと風邪気味です。 #artsd2

OKDATAZULOW 2012-11-24 14:25:10



どのようなフリーペーパー 情報誌を作るか 北九州市情報誌「雲のうえ」 など事例紹介 #artsd2

syunkou\_h 2012-11-24 14:59:41



今日の夕方は、食のベージの了解を得るため、食事 を兼ねて再びモモヤへ行ってまいりました。 食のベージをご夫婦に見せたら、掲載を快踢してい ただくばかりか、とても喜んでもらえました。 アーツ前額のプレイベントのポスターとチラシも置 かせていただきました。

郵料理の難しきとか、制業的から50年以上使って いる飲のフライパンの話とか、いろいろ話が弾みま した。このフライパンの写真はなかなかお目にかか れないレア写真なのではないかなと思います。 ちょっと悪ノリしてお願いした記念写真まで快速し てくれて、もう本当に経済です!

もっと思る



# 4. zine うしろあるきの構想 各グループのとりくみ 編集会議、最終校正

さらに、zine 『うしろあるき』を構想、コンセプト作りからネーミングをめぐって、何度もミーティングが開かれ、各グループに分かれてからも熱心な取材が行われ、最終校正では、さらに細かくみんなでチェックを入れました。Facebook で取材の様子の報告などもしあいました。

5. 内覧イベントでの製本・配布、うしろまえばし散歩 内覧イベントでは、その場で製本をしながら、多くの来 場者に配布しました。また、zine の記事に沿って前橋を 歩いてみる「うしろまえばし散歩」も開催、好評を博し ました。

#### 6. 今後の展望

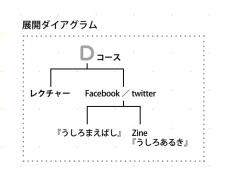
創刊準備号の『うしろあるき』。10月のアーツ前橋グランドオープンで創刊号を発行できるよう今後どのように展開していくか、コースが終わった後も、参加者たちによってアイディアを出し合っています。

田中 優里 こんにちは。「発信」=こち ら側が主体となって進めていこうという強 さ、「回覧」=受けて側の方も取り込んで 広がっていこうという柔かさをそれぞれ感 じました。これからの活動がどうありたいのかということが関わってくるのかなと思いました。

# き うしろまえばし 4月2日 ☆

【3月24日うしろまえばし散歩ツアーレポ】 たくさん投稿してきたツアーの写真も ぼくからはこれが最後。 正幸寺境内を散策する一行。 今回のツアーで一番うれしかったのは、 たのしい皆さんと出会えたことです!







12

# art school Da-z





佐々木俊尚さん(上左)からソーシャルメディアが人々に利用される理由や効果的な発信方法、情報の取捨選択など、国内外のさまざま事例をとおして学びました。江口宏志さん(下右)は、国内外のお勧めの ZINE について紹介されました。



内覧イベントで配布した zine 『うしろあるき』。食、歴史、散策、地図などのグループに分かれて作業しました。地図ページでは中心市街地をハートに見立てました。









 $(\mathbf{d})$  a  $(\mathbf{t})$  a

事業名称:プレイベント vol.17 「アートスクール Dコース」マエバシ文化発信局

受講講座:全6回

場所:中央公民館、前橋文学館

開催日: 平成 24 年 11 月 11 日 (日) ~平成 25 年 2 月 16 日 (土)

コーディネーター: 岡田達郎

**11月11日(日) 13:30~16:00** 第1回「ソーシャルメディアとネットリテラシー」 ゲスト:佐々木俊尚(作家/ジャーナリスト)

**11月24日 (土) 14:00~16:00** 第2回「最新のZINE事情をまなぶ」 ゲスト: 江口宏志 (ブックコーディネーター)

12月 1日 (土) 14:00~16:00 9 第3回「前橋自慢を世界へ」

ゲスト: 岩崎隆(「群馬よもやま話」編集長)

**12月22日 (土) 14:00~16:00 ○** 第 4 回「つたえる手法を学ぶ < 取材・記事作成・写真 >」 **ゲスト**:中村ひろみ(フリーライター)、後藤朋美(アーティスト)

**2月 2日(土) 14:00~16:00** ● 第5回「ZINE編集会議」

**2月16日(土) 14:00~16:00** ● 第6回「ZINE編集会議」

art school 15

## art school E =- z

# ar<sub>cHives</sub>

## 『前橋文化年表プロジェクト』 アートな出来事を記録する

アーカイヴの必要性や記録・保存する手法について学び、実際に年表を作りながら、前橋のアート関連の 活動を記録し、未来へ残していくプロジェクトです。

#### 1. レクチャー

#### 染谷 滋さん

「年表作りは、前橋の地域にとっての大きな一歩です。年表を作ることで、自分の地域、歴史を見直すきっかけになり、さらに、群馬全体、日本全体が自分の地域を見直すきっかけになるように夢見ています」

#### 住友文彦さん

「アーカイヴは、現在の価値基準だけで判断せず、将来役立 つか分からない資料を整理、保管する場所である。この点が 図書館とは大きく異なる点」

「学芸員はアーカイヴの中から選択して展覧会を企画している。別の見方をすれば、アーカイヴのなかには潜在性がある」

#### 成澤みずきさん

「エフェメラ資料の取捨選択は、"捨てない"ことが大事。どうしても分類しかねるものは、"その他"として取っておくこと」

\*エフェメラ資料:図書館学では、「ギリシャ語の儚い」を語源とした、一枚もの、一定期間しか手に入らない資料のこと。展覧会チラシ、ダイレクトメール、美術館案内、チケット、展覧会資料(ワークショップなど)、レセプション資料、展覧会目録、ポスター、写真、原稿・手紙、機関誌、新聞記事スクラップなど多種多様。

#### 2. インタビュー

前橋のアートを牽引する前橋芸術週間代表の小見純一さんに、ファシリテーターの染谷さんがインタビュー。生い立ちにはじまり、前橋で地元密着のアート活動をするに至った現在までを年譜に沿った対談で行われました。これまでの活動を示すポスターや企画書などの貴重な資料も見せていただきました。

#### 3. それぞれの興味の持ち方、取り組み

アートスクール受講者が自分の関心があるテーマを選び、取 材や調査によって年表を作成しました。

#### 4. 各テーマの発表・講評

#### 前橋市芸術教育歴史年表

(講評) ビジュアル的に見せるのは大切で、年表がきれい。 年代ごとに良くまとまっている。

#### - 北関東造形美術館

(講評) 自分の足で資料を集めている。年表の作り方は、望んでいるものを見事に再現している。

#### 前橋市の祭・伝統芸能年譜

(講評) 出典を明らかにしたほうがいい。祭りを描いている 画家や写真を撮っている人もいるはず。美術とのつながりを 見つけてみるのも面白いのでは。

#### 糸のまちで女子教育「鈴木服飾学園沿革」

(講評) 鈴木学園以外の情報も欲しい。鈴木学園がどういうポジションだったのかが分かる。

#### 群馬版の「お知らせ欄」に見る前橋の文化事情(朝日、 毎日、読売、産経、東京の5紙の比較)

(講評) 同時期の5紙をこんなに細かくみたことはないので、面白い。新聞は当時の支局の記者の好みがとても反映している。

#### ●元祖焼きまんじゅう原嶋屋総本家年譜

(講評) 資料やインタビューをもとに、よくまとまっている。 食の歴史の中で群馬のふるさとの味として、その歴史を書き 起こした労作です。

#### 前橋文化研究所史

(講評) 資料作りとして DM から取っているものは、それがわかるようにしてもらいたい。

#### ●金井訓志年表

(講評) 作家ひとりに焦点をあて、作家本人から資料を引き 出してくれた。詳しい年表で、資料的に貴重。

#### 一可修

(講評) 戦後の前橋を出発点にしている人で、アーツ前橋に とっても見逃せない作家のひとり。

#### 5. 内覧イベントでの展示

スクール受講生のカナイサワコさんに展示プランを考えても らいました。

#### 6. 今後の展望

美術に限らない衣食住などを含めた前橋の文化年表を作成し、アーツ前橋のグランドオープンでお披露目できるように、スクール修了者や年表作成に興味のある人たちと調査を進めていきます。



#### 参加者からの声 1

#### 金田佳子 さん

Q:課題に、焼きまんじゅうの原嶋屋さんを選んだのはなぜですか?

A:第一に焼きまんじゅうが好きだということです。「秘密のケンミン SHOW」というテレビ番組で焼きまんじゅうが取り上げられた時に、「こんなのまんじゅう焼いただけじゃん!」と、あるタレントが言っていたのを見て、ばかにされたようでショックでした。群馬県はもっと焼きまんじゅうについてアピールしなくてはと、強く思いました。そして私自身も群馬に生まれて、育ったにもかかわらず、焼きまんじゅうのことについてよく知らないことに気づきました。 E コースを受講し、年表づくりの話し合いの際に、今まで気になっていた焼きまんじゅうのことをお話ししましたら、皆様が賛同してくださいましたので、とても嬉しかったです。

Q:年表にするのに難しかったことと楽しかったことはなんですか?

A:取材の際にも、原嶋屋さんも大変親切に対応してくださいましたし、染谷先生、辻さんもご多忙でありながらも、いつも質問に答えてくださいましたので、難しいことはありませんでした。

ただ約 160 年の老舗なので、実際の年表づくりに時間が思ったよりもかかりましたが、完成後はうれしい達成感でいっぱいになりました。 年表作りは昔と今そして未来の橋渡しになることがわかり、良い経験をさせていただきました。 ありがとうございました。



## art school E =- z





#### 参加者からの声 2

#### カナイ サワコ さん

Q:課題に、前橋文化研究所を選ばれたのはなぜですか?

A: この施設は私が美術を始めた頃に知り合いの作品を観に行ったり、自身の展示を行った場所です。過去に沢山の展示をしているのにも関わらず、記録もシッカリと残っていませんでした。この機会に振り返ってみたいと思い、年表にしました。

**Q**: 年表を作っていく中で、難しかったところと楽しかったところはどのようなところですか?

**A:** DM やフライヤー、Web サイト、作家への聴き取り、と色々なメディアから情報を収集しました。情報の確認作業が大変でした。しかし、頂いた作品写真を見るのが楽しかったです。

#### 参加者からの声3

#### 新井葉月 さん

アーカイブ制作の年表作りを通して、良かったことは事実を客観的に述べた年表の中にたくさんの人の想いや、歴史が詰まっているのだと気づけた事です。より前橋が好きになり、過去を知ることで未来の前橋の姿も想像出来ると思います。もっと多くの人にも、身近なことの年表作りをして、ほしいなと思いました。現役の学芸員さんや司書さんに貴重で実戦的な話を聞けたことは財産だと思います。これからも、年表作りを祭りに限らず調査していきたいです。

#### 参加者からの声4

#### 丸山典子 さん

2011年のアートスクールCコース「美術をかたる」を受講して以来、地元前橋の美術史に興味を持つようになりました。講義が中心だったCコースと違い、今回は課題もあってなかなか大変でしたが、自分で調べることによる発見もあり、貴重な体験ができました。また、美術関連の資料とその扱いについて、司書の方から実践的でなかなか聞く機会のない話が聞けました。そして他の受講者の方たちの発表の中にも、興味深い話がいろいろありました。

実際に自分で年表を作ってみて、出来上がった年表を見るだけではわからないことがいろいろあることに気づき、多分これが今回の一番の収穫だったのではないかと思います。私の調査は新聞紙面だけでしたが、古い新聞を1ページずつ見ていくと、その時代の空気のようなものを感じます。年表上では1行で表されてしまう出来事の背景には、その空気の中の様々な出来事があり、それらがどこかでつながっていることを想像させます。そしてそのつながりが「現在」にも通じていると思うと、歴史を調べ、学ぶ、楽しさや面白さが広がっていくように感じました。



内覧イベントで展示した年表の一部。今後、調査を継続し、開館展でのお披露目を目指します。

#### 講師の染谷さんから

ファシリテーターとは助言者という意味だが、果たしてその役目をきちんと果たせたか心許ない。とはいえ、 出来上がった成果には満足しているし、楽しかったと言ってくれた参加者が何人も居てくれたので喜ばしい。

そもそもこのコースは、平成23年度のプレイベントだったアートスクールCコース「美術をかたる」の際に、私が参考までに制作した「前橋美術文化年表1945-2011」を、もっと完全なものにするための準備段階として計画された。

美術に限らず、衣食住を含めた生活文化全般に項目を広げた「前橋文化年表」の作成を、市民とともに作り上げるようなことが出来たら素晴らしいと思っている。

歴史というものは過去のものではなく、現在を築き上げてきたものであり、未来に向かって今も築いている日々の営みのことだ。個々の表現活動に見えるアートの分野にしても、過去の歴史から無縁ではない。それは今の自分の存在が、先祖代々の人生と無縁ではないのと同じことだ。だからこそ、過去の歴史を記憶し、記録することは、現在の生活を大事にすることにも繋がると思っている。

(**d**) a t a

事業名称:プレイベント vol.17 「アートスクール E コース」アートな出来事を記録する

受講講座:全6回

場所:中央公民館、ミニギャラリー千代田

開催日時: 平成 24 年 11 月 9 日 (金) ~平成 25 年 3 月 1 日 (金) 18:30 ~ 20:30

ファシリテーター: 染谷滋 (群馬県立館林美術館館長)

**11月 9日(金)** ● 第1回「オリエンテーション」

11 月 30 日 (金) ● 第 2 回「インタビュー」 ゲスト: 小見純一 (NPO 法人前橋芸術週間代表)

**12月 7日(金)** ● 第3回「アーカイブとドキュメンテーション/資料整理の手法を学ぶ」

ゲスト:成澤みずき(美術館図書室司書)

**1月25日(金)** 第4回「中間発表」

2月22日(金)●第5回「発表・講評」

**3月 1日 (金) 第**6回「リフレクション&アフタートーク」

18

# artschool Sコース (サポーター)

## 『たのしむ ささえる ひろがる。』

アートスクール S コースでは、さまざまな美術館や地域アートプロジェクトの事例を通じて、サポーターがどのように地域の施設や文化を支えているのかを学びました。

社会が大きく変化している中で、美術館や地域アートプロジェクトでの、サポーターの関わりは、ます ます重要になってきています。



金沢湯涌創作の森所長 黒澤伸さんの講義では、黒澤さんが関わった、水戸芸術館と金沢 21 世紀美術館での、サポーター 組織の事例が紹介されました。

#### 参加者からの声 2

神田 知子さん

Q:Sコースに参加されたのはなぜですか?

A:アーティストでなくても、美術館の活動に参加できるのが魅力だったので。

**Q**:アーツ前橋のイベントなどにご協力いただいていく中で、難しいと思われる点と面白いと思われた点をあげていただけますか?

**A**:難しいこと・・・正直、サポーターの仕事というものがまだよくわかっていないので、どこまで関わっていけばいいのか?自分の役割がはっきりしないこと

A:面白いこと・・・来館者と直接ふれあえる機会が多いこと。そういう意味では、プレイベントはとても楽しかったです。

・ 楽しみたい。

メディアのカ。(金沢2)世紀美術館の例》

・ちょいとした鑑賞の仕ま

・金監賞のき、かけを手える

(早美のサポケン活動)

・運動をもなるのごうれしい

すしたいたいましょくなくなっている。ゴタゴダがなの

→ F景の選集のする。 → 時を終く会」は参加できる日子(参加 一年がかりで)原画展。企画、交渉。

様々な立場の人が参加。

美かい世界、刺激がある。

の美術館は空いてる時間にほって出掛いる アーティストトナリト合わせては、難しい

1馬車場にいて.

→金沢は「ない」です。本当はあたまがい。 →水戸は少し離れた所にある。

→前橋は自転車の行のもと整備をの

● メディアに引引い人にも、情報がはわるように

→交通整理はJCなどに依頼73。

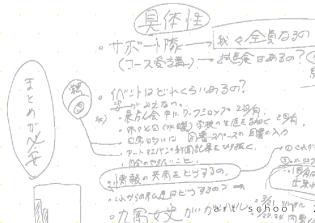
一分祭りたは歩れていくから大丈夫。

・サオーターの石が修ジステム
一つこれから、みんなど考えといきましょう

→現場でホットな情報を守びながら蓄積

の欠席したらどうなのか? できれば全回受講になけい 音が入手 Fラン 6(即進、五H知ら本ール、) 前部のPOPtoP face book P

第一線で活躍されている豪華講師陣の多様な観点からの講義。講義 がおわった後も、長い間意見交換が続きました。



館と事業を付うとき気でけていることはで、
動しまれていることはで、
動しまれていることはできた。
一年民とのなが、動いの館側の理解
あたりまた」と思っていることがちがう

・事業の目的を紙し書く、 与反省会をきないとける。 のいの特別にいことを考える。 ラルい雰囲気をつくる

artschool Sコース (サポーター)

コーディネーターがしたちスムーマット オッランティア(見り

何でアツ前橋を選れたのか?



運営側だけでなく、じっさいに地域 AP や各美術館でサポーター組織に参加している人たちからの報告もありました。ときにまじめに、ときになごやかに、講義と交流を重ねるにつれ、受講生のみなさんの考えも深まっていったようです。

#### 参加者からの声2。

関口 実那さん

Q:Sコースに参加されたのはなぜですか?

**A**: 私の職業は幼稚園教員ですが、幼児教育における造形の可能性を探るべく美大で学ぶにあたり、身近な地域での活動拠点としてのアーツ前橋立ち上げの存在を知って、少しでも美術表現による地域復興の力になりたいと感じたと共に、世の中の造形表現活動に関する必要性と興味・関心の動向を知って、芸術の確固たる存在意義を確認したかったからです。

**Q**:アーツ前橋のイベントなどにご協力いただいていく中で、難しいと思われる点と面白いと思われた点をあげていただけますか?

**A**:面白いのは、資格を問わずアートを介して直接地域の方々とふれあうことができ、企画や対象への来館者への反応がじかに見聞き出来ることと、アーツ前橋の進行に直接携われることです。反面、まだ軌道に乗っていない施設ですので、具体的な活動マニュアルや企画が明らかでないこと、打ち合わせ時間の確保が難しいサポーターの立場には伝わりにくいことがありますが、未知数に期待を寄せて楽しみに待つこともできます。



アーツ前橋でどのようなサポーター活動ができるのかをグループで話し合い、発表しました。

(d) (a) (t) (a)

事業名称:プレイベント vol.17 アートスクール S 「たのしむ ささえる ひろがる。」

受講講座:全6回 場所:中央公民館ほか

開催日時: 平成 24 年 11 月 18 日 (日) ~平成 25 年 2 月 10 日 (日)

-11月18日(日) 13:00~17:00 - 第1回 - サポーターの活動とは? - 講師:黒沢伸(金沢湯桶創作の森所長)

12月 9日(日) 13:00~17:00 ● 第2回 他館におけるサポーター活動

講師:茅野市民館・茅野市美術館サポーター NPO 法人サポート C

12月16日(日) 13:00 ~ 17:00 ● 第3回 地域アートプロジェクトを支えるボランティア活動 講師:関口正洋(越後妻有アートトリエンナーレ事務局)ほか

平成 25 年

**1月12日(土) 13:00~17:00** ● 第4回 アート・コミュニケーターの活動

講師:稲庭彩和子(東京都美術館アート・コミュニケーション担当係長)、 伊藤達矢(とびらプロジェクトマネージャー 東京藝術大学美術学部特任助教)、 近藤美智子(とびらプロジェクトコーディネーター東京藝術大学美術学部特任 助手)ほか

**1月26日(土) 12:00~17:00** ● 第5回 群馬県立近代美術館のスクールサポート活動 講師:熊谷ゆう子(群馬県立近代美術館学芸員)ほか

**2月10日(日) 13:00~17:00** ● 第6回 みんなでトーク×トーク!



vol.18 作品展示「イメージのさざ波」





年度、本市アーティスト・イン・レジデン ス事業で招聘した韓国人アーティスト、ペ・ ヨンファンは、滞在中に福島を訪れました。日本 の社会学者とともに海岸線沿いを歩いて撮影され た映像が《福島のため息》です。頭の後ろにつけ たカメラがとらえる映像は、無意識を記録するか のようです。デカルコマニーやシュルレアリスム 的な自動筆記も、無意識の世界を探求する行為で、 偶然性による造形という特徴が共通しています。 ドイツの画家ヴォルスは、自動筆記によって偶然 生まれるかたちや色について、「繰り返すことなく 繰り返す港のさざ波」に喩えていますが、そうし た造形の意図を超えたものであっても、見る者は 何かを感じ、そこに意味を見出そうとします。 この展示は、無意識・偶然性といった、意図を超 えたものに宿る何か、をみつめるものになりまし

た。



てきた。《福島のため息》は一つの作品でありなが ら、自分の記憶の一部である。福島の映像と枯れ 木で作られたギターを通して、私はあの日のいわ きの海を思い出した。そして、福島の映像から目 を離してみると、周りにはシュルレアリズムの作 品が展示されていた。リアルな現実から、イメー ジのさざ波によって現実を超えたある場所に運ば れてしまったような気がした。突然、リアルな現 実こそ、そのように複雑で、揺らいでいて、一つ に定まらないものではないかと思った。(チョ・ム

# プレイベント

## vol.18 作品展示「イメージのさざ波」



メージのさざ波」関連事業の、アーティストトークでは、《福島のため息》を制作したペ・ヨンファンさんと、撮影に同行・出演し、往復書簡を交わした社会学・学術メディア研究者の福西敏宏さんとが撮影の際の記憶をお互いに語り合いました。

トークの後、聴衆のみなさんとの会話の中では、 被災地とアートを巡って、意図するものと意図 を超えるもの、さまざまな社会的な問題を共有 するための様々な回路、といった議論が交わさ れました。





pre-event 27

(d) a t a ....

事業名称: プレイベント vol.18 作品展示 「イメージのさざ波」

開催期間:平成24年11月23日(金・祝)~12月16日(日)

**公開時間:**火、水、木曜日は 13:00 ~ 17:00 / 土、日曜日、祝日は 11:00 ~ 17:00

会場:ミニギャラリー千代田

出品作家:アンリ・ミショー、ヴォルス、ペ・ヨンファン、砂盃富男、瀧口修造、元永定正

主催: 前橋市文化国際課

関連事業:ペ・ヨンファンさんによるアーティスト・トーク

**日時:** 11月23日(金·祝)17:00~18:00

会場:ミニギャラリー千代田



## vol.19 平成 24 年度地域アートプロジェクト「マチリアル」

チリアルプロジェクトは、平成23年の藤浩志さんによる、地域アートプロジェクトを考える、アー トスクールBコース「モヤモヤをカタチにする」の発展形として、街なかに「部室」を作るとい う活動として構想されました。商店街の中の部室で、いままでと違った形で街に関わるさまざまな活動 を生み出そうとしていきます。

現在の中心市街地の現状・・・「マチのリアル」に向き合い、中心市街地で活動する文化団体や市街地で 暮らす人々同士の横の繋がりをつくり、さまざまな人が集う場をつくりだします。活動自体は学校のよ うな形態ではなく、地域の「部活動」とし、参加者とともに中心市街地の空き店舗を利用した活動拠点「部 室」をつくります。「部活動」の条件は、前橋市内を拠点とし、地域に根付いた文化活動であること、誰 でも気軽に参加できる内容であることです。







部室の場所を探して、街なかを探索しました。 街の風景がいつもと違って見えてきます。



#### 「部室」物件候補地

場所:前橋市千代田町2丁目

大きさ:1 階部分=約 10 坪

- 2階部分=6畳、4畳半、3畳間
- \*2階部分を改修し、打ち合わせ等

に使える場所にする予定。



## vol.19 地域アートプロジェクト マチリアル

## 部室入居予定団体

内覧イベントでは、入居団体を紹介することをはじめとした展示も行いました。 街と人が出会っていくための新しい試みが始まろうとしています。

## プランツ

2011 年に開催されたアートスクールBコースから発足し、月に一度、実 現してみたいアイデアを持ち寄ってミーティングを開催しています。さま ざまな分野・世代・価値観の人が集まり、2時間のミーティングのあとは、 まちなかで飲んだり食べたりしながら交流を図っています。「詩と音楽の オープンマイク」や、ミニギャラリー千代田等での展覧会の企画、市内外 のイベントをレポする「コトノバラボ」がミーティングを重ね実現しました。 現在は、映画上映会、CD企画制作などの検討を進めています。

また、多彩な活動をしているメンバーが揃っているので、自身の活動内容 についてプレゼンしてもらう「ミニ講座」のような時間も設けています。 メンバー数:15名

1) 平成23年から前橋市の指定管理者としてるなばあくを管理運営中です。

3) 前橋中心商店街協働組合、厩橋CHINDON倶楽部、NPO法人

るなぱあくの「顔」である5頭の木馬フィギュアを、現在、限定販売

波宜亭倶楽部、前橋商工会議所などと連携して各種のイベント等

(メーリングリスト登録数:約40名



2) 前橋のまちづくりのための講演会を開催しています。

左:詩と音楽のオープンマイ? 右:プランツミーティング

## うしろまえばし編集部

うしろまえばし編集部は、facebook ページ「まえばし文化探索隊 うし ろまえばし」を運営し、ZINE「うしろあるき」を発行するプレイベント vol.17 アートスクール D コースのメンバーからなる有志団体です。

立場の違う 22 名のメンバーが、普段なにげなく生活していてもなか なか気づくことの出来ない前橋の「うしろ」がわに眠っている地域文化・ 地域資源を独自の視点で探索し、SNS や紙媒体を使って随時発信して います。

うしろまえばしでは、前橋の知られざるうしろがわをフォーカスすることで、 新しい前橋の価値を探り、私たちが前橋で豊かに生きるためのアイデン ティティを文字通り裏打ちしていきます。





ZINE(フリーペー 編集会議の様子

前橋文化推進会議(略称 ブンスイ)は、『アーツ前橋』を中心に「市民の 手によって/新たな文化を生み出し・支え、維持し/発展させ、発信して いくこと」を準備するための市民会議で、2012年10月に発足しました。 大学教員を始め、経営者やデザイナー、編集者など芸術・文化に深く関心 を持つ多様な領域・立場の委員が、アーツ前橋の企画運営や評価などに市 民が主体的に関われる仕組み作りや、より多くの市民に向けての情報発信 を行っています。9 人の委員は、2012 年前橋市芸術文化施設運営検討委 員会による推薦と、メンバー拡充のための公募によっで選ばれました。

様々なプロジェクトチームに分かれ、メン バー同士が意見交換を行い、様々な事案を 検討しています。また、アーツ前橋関連 情報、市民と文化の関わりに関する情報 などを HP、Facebook、Twitter を通して 日々発信しつづけてい ます。 メンバー数:9名

発足以来、毎月一回定例会議を開催。



4) 将来的には経済的に自立したまちづくり会社の設立を目指します。 メンバー数:24名

を行っています。

しています。



## まえばしアーカイブ (仮称)

プレイベント vol.17 アートスクール E コース受講生の有志が集い、前 橋でおこなわれてきたアート関連イベントを年表にするプロジェクト

「部室」は前橋文化年表の編集作業や、メンバー間の打合せで利用します。 メンバー数:約10名

## ぐんだいこどもわーくしょっぷ部(仮称)

群馬大学教育学部美術教育講座における、市民参加の場所としての活動 を予定しています。

①群大生がアーツ前橋と市民・子どもとの関わりの中で、集まって発信・ 連携できる仕組みづくりを考える場

②展示・ミニ FM・Ustream での発信、コミュニティーカフェの運営 ③アーツ前橋のバックヤードを支える部として活用



2月末でのリノベーション提案。\*実際は、これとは異なります。

(**d**) a t a

事業名称:プレイベント vol.19 平成 24 年度地域アートプロジェクト「マチリアルプロジェクト」

#### 第1回 ミーティングテーブル「集まれ!まちなかの文化活動」

日時: 平成 24 年 11 月 23 日 (金・祝) 14:00 ~ 17:00

会場:ミニギャラリー千代田

講師:藤浩志(美術家・十和田市現代美術館副館長)

ゲスト:吉川晃司 (float 運営メンバー)

#### 第2回 ミーティングテーブル

**日時:** 平成 25 年 2 月 24 日(日) 16:00 ~ 18:00

会場:ミニギャラリー千代田

講師:藤浩志 (美術家・十和田市現代美術館副館長)

pre-event 31

## vol.20 ワークショップ「ダンスで時計」 時を告げるダンスをつくろう!

**メ**ンスで時計は、新しい形での身体表現と、街が出会うためのプロジェクトです。矢内原美邦さんと、高橋啓祐さんにトス島はい時間のでは、 と、高橋啓祐さんによる身体と映像の関係を追求するユニット off-Nibroll が、前橋の街と関わり、 この土地の多くの人々の身体表現を映像化して、アーツ前橋に設置する時計を作り出そうとするプロジェ クトです。2013年1月19日(土)、第一回のワークショップが行われました。 市役所の 12F 市民ロビー で、窓いっぱいに広がる晴天の赤城山を望みながら、市内のダンス・演劇経験者を中心とした10数名が、 このプロジェクトのサポーターとして関わるべく集まりました。









ダンスで時計ワークショップチラシ







【アーティスト略歴】 off-Nibroll (オフ・ニブロール)

振付家・矢内原美邦と映像作家・高橋啓祐が、身体と映像がつくりだす空間をより追求するために立ち上げたユニット。劇 場をはじめ、美術館、ギャラリー、パブリックスペースなど多様な空間で作品を発表。映像インスタレーションとともにダ ンスパフォーマンスも展開し、身体と映像の関係性を追求している。東京、横浜を拠点に国内外で活動。



事業名称:プレイベント vol.20 ワークショップ「ダンスで時計」 時を告げるダンスをつくろう!

開催日時: 平成 25 年 1 月 19 日 (土) 13:00 ~ 16:00 対象: 高校生以上で演劇・ダンス等の経験がある方

会場:前橋市役所 12 階市民ロビー

講師: off-Nibroll (高橋啓祐、矢内原美邦)

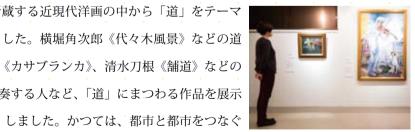
\*ワークショップの模様は、前橋文化推進会議によって Ustream 中継されました。 http://www.ustream.tv/recorded/28621562







■ 展示では、前橋市が所蔵する近現代洋画の中から「道」をテーマ にした作品を紹介しました。横堀角次郎《代々木風景》などの道 が描かれた風景や、久保繁造《カサブランカ》、清水刀根《舗道》などの 道を行き交う人々、路上で演奏する人など、「道」にまつわる作品を展示





ために作られた道。人の往来によって、文化の異なる人々が出会い、交流 して、そこには新しい文化が生まれます。また、住宅、店鋪、工場、学校、 寺院などの個別の役割を持つ場所を結びつけているのも道です。アーツ前 橋も、そんな場所になって、未来へつながる道をみなさんと歩き出したい と思っています。

 $(\mathbf{d})$  a t a

事業名称:プレイベント vol.21 平成 24 年度前橋市収蔵美術展「はじまる道」\*市制施行120 周年記念事業

開催期間:2013年2月16日(土)~3月17日(日)

会場:ミニギャラリー千代田

公開時間:火~金曜日:13:00~17:00/土・日 10:00~17:00

主催:前橋市





## vol.22 ワークショップ 絵画×音楽



展示会場のミニギャラリー千代田に移動して、早速思い思いの作品を選んで演奏です。





## 地域アートプロジェクト ガーデニング・プロジェクト

**──い**ザインを通じた社会貢献活動を手がける EARTHSCAPE (アースケイプ) によるメディカル・ハー アブマン・カフェ・プロジェクト in 前橋。地域の植生や薬草の知識を発掘しながら街なかに人型に デザインされたハーブガーデンを展開していくプロジェクトです。



内覧イベントでは、この地域の野草を知ってもら うために、カードを描いたり、野草茶を飲むため のブースがもうけられました。

「ハーブマンを呼ぼう!」

日時:平成25年3月23日(土)、24日(日)

13:00 ~ 19:00

会場:アーツ前橋 交流スペース

アーティスト: EARTHSCAPE アースケイプ

(ランドスケープデザイナー) ハーブマンの紹介展示

● 24 日 16:00 からトークを実施



 $(\mathbf{d})$  a  $\mathbf{t}$  a

#### 【ガーデニングプロジェクト】

街のなかにも、いろいろな緑がある。郊外の自然とは違い、それは仕事や趣味の時間を過ごす日常により近い場 所で、気軽に接することができる自然である。その楽しみ方もただ見るだけでなく、食に供することができるも のを様々なレシピで楽しんだり、プランターの花ばかりでなく多年草や地植えの植物をうまく組み合わせるなど して、都市の空間利用の仕方を創造的に楽しみ、いろいろな人が参加できる仕組みをつくりだしていく。

#### 【今後の予定】

平成24年度事業によって関心を持ってくれた市民を中心に活動組織をつくり、メディカル・ハーブマン・カフェ・ プロジェクト in 前橋の実施と、街のなかで緑を増やしていける場所を見つけて(例:千代田通り)、少しずつ活 動できる場所を増やしていく。

#### 【アーティスト略歴】

## EARTHSCAPE アースケイプ

ランドスケープデザインスタジオ。国内外の施設のランドスケープやアート作品の制作をおこなっている。代表の団塚栄喜 (1963 年大分生)が 1999 年に設立。ららぽーと豊洲、ラゾーナ川崎、銀座三井ビルディング、渋谷区文化総合センター大 和田などを手がける。Medical Herbman Cafe Project(メディカルハーブマンカフェプロジェクト)=MHCP を立ち上げ、越 後妻有トリエンナーレ 2009 に参加。移動型の仕組みを活かして、各地で MHCP を地域住民と運営している。 2012 年にグリー ン・グッドデザインアワードを受賞。オリジナルレシピの開発などもおこない、鑑賞するだけではなく、飲食によっても楽 しむことができるイベントにしている。



# 地域アートプロジェクトダイニング・プロジェクト

**上し**域の食材や調理法・保存食などの知識を発掘し、アートの枠組みの中で、共有していくプロジェクトです。これから、さまざまな取り組みが始まって行きます。



内覧イベントでは、乾燥をテーマに、さまざまな 野菜の干し方の実験を展示しました。

### 「風の食堂」

日時: 平成 25 年 3 月 23 日 (土)、24 日 (日)

13:00 ~ 19:00

会場:アーツ前橋 交流スペース ゲスト:田平恵美(食の探偵団) 近藤愛子(アーティスト)

近藤愛子 (アーティスト) 長谷川恵理子 (野菜ソムリエ)

横田雅博





右上から 長谷川理恵子さん、 横田雅博さん、田平 恵美さん、近藤愛子 さん



「からっ風」と「日照時間が長い」という地域の特性を活かして、風によっておいしくなる乾燥保存のあらたな魅力を紹介しました。

乾燥野菜や乾物を使ったレシピの紹介、ダイコンやキュウリを吊るし、乾燥具合によって時間の経過を可視化。キュウリを切るワークショップや参加者でトークなども行いました。





 $(\mathbf{d})$  a t a

#### 【ダイニングプロジェクト】

現代社会の「合理化」や「効率化」という価値観では見過ごされがちな、テマヒマや時間をかけることを見直し、これからの生き方を地域の人々とともに見つけていくプロジェクト。「食と時間」をテーマとして、時間をかけることでおいしくなる食材や料理、保存方法などを取り上げ、地域の文化資源を再発見していく。

#### 【今後の予定】

食材について学び、育てて、食べるということで、食を通じた交流を行う。

また、展開例としては、乾物だけでなく、醗酵や燻製なども取り上げ、「食と時間」を考えるプロジェクトにする。



## 前橋アートコンペライブ 2012













公開審査風景

回で 16 回目の開催となる前橋アートコンペライブ 2012。市民文化の醸成、地方からの文化発信を目指して、新進で優れた芸術家の発掘と支援、また、芸術作品の発表の場を提供し、新しい文化の萌芽を促すこと、さらに中心市街地を会場とすることにより、街の活性化をソフト面から支援する事を目的に開催しています。書類審査を経た最終審査は公開で行い、審査員と出品者が自由な質問・応答を交えながら、審査員がアートトーク的に作品を批評し、受賞作を決定。本年度は、前橋市出身の林麻依子さんがグランプリに輝きました。

[審査員]

伊東順二:(美術評論家/富山大学芸術文化学部教授)

秋元雄史:(金沢21世紀美術館館長)

森村泰昌:(美術家)













**d** a t a

**事業名称:**第 16 回前橋アートコンペライブ 2012

主催:前橋市、前橋文化デザイン会議実行委員会、特定非営利活動法人前橋芸術週間

後援:前橋市教育委員会、上毛新聞社、朝日新聞前橋総局、読売新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、産経新聞社前橋支局、東京新聞前橋支局、共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、ジェイコム群馬、まえばし CITY エフエム

協力:前橋中心商店街協同組合

[公開審査]

**日時:**平成 24 年 12 月 2 日(日) 13:00 ~

**会場:**前橋プラザ元気 21 1F にぎわいホール

\*本年度は347作品の応募があり、最終審査となる公開審査には28作品が選ばれました。

[入賞作品展]

**日時:** 平成 25 年 1 月 7 日 (月) ~ 1 月 20 日 (日)

会場:ミニギャラリー千代田 公開時間:10:00 ~ 17:00

42



## 前橋アートコンペライブ



グランプリ/林 麻衣子/《月夜はさざめく風をくぎづけにする》/素材:陶、木/H78×W35×D44cm



#### [グランプリ受賞者コメント]

この二本足で立つ狼は、夜の静けさと風のざわめきを表現した作品で、細かく蠢くような表面と緊張感のある形態で、「動」と「静」という相反する対比を両立させようとしました。手捻りでできた内側から膨らむような形は、表と裏を持ち、「虚」を抱えています。

林 麻依子



銀賞/坂本千弦/《Worship Dress》/素材: Latex、アクリル BOX / H150 × W50 × D50cm



伊東順二賞/名倉達了/《chair》/素材:黒御 影石、石彫/H112 × W36 × D40cm





銅賞/村上 彰/《Help Me》 /素材:シリコンゴム/H6 × W5 × D3.5cm



秋元雄史賞/長谷川寛示/《Merian》/素材:樟 / H40 × W100 × D76cm



銅賞/三宅玄朗/《コンダクター》 /素材:キャンバス、アクリル絵 具/H90.9 × W72.7cm



森村泰昌賞/千葉麻十佳/《Licht》/素材: キャンバス、太陽光/H100 × W140cm



## フラッグアート 2012

## まちなかを彩る」

**入人**橋中心市街地の「顔」のひとつである商店街をより明るくするためのフラッグ(縦 120 c m×横 **月 リ** 114 c m)を創作。市内の中学校 20 校が参加しました。



#### [まちなかツアー]

日時:平成24年8月10日(金) 場所:前橋中央通り、弁天通りアーケード

中学生グループと大学生のボランティアが商店街を一緒にめぐり、通りやお店で気になったものや描くモチーフになりそうなものを写真におさめました。最後に、写真に撮ったものをみんなの前で発表して意見交換しました。





[公開展示] 会期:10月24日(水)~11月29日(木)場所:前橋中央通り、弁天通りアーケード

**(d)** a t a

事業名称:フラッグアート 2012

**主催**:前橋市、前橋文化デザイン会議実行委員会

共催: 前橋市教育委員会

協力:前橋中心商店街協同組合、中央通り商店街振興組合、弁天通り商店街振興組合

参加中学校: 第一中学校、みずき中学校、第三中学校、第五中学校、第六中学校、第七中学校、春日中学校、広瀬中学校、桂萱中学校、芳賀中学校、元総社中学校、東中学校、箱田中学校、南橘中学校、鎌倉中学校、木瀬中学校、大胡中学校、富士見中学校、群馬大学教育学部附属中学校、共愛学園中学校(20 校 35 点)

# 施設内覧会

成 24 年度 10 月末に「アーツ前橋」の工事が完成したことを受けて、設計者の水谷俊博氏による 建築コンセプトや概要の解説付きの内覧会と、自由に館内を見てもらう見学会を実施しました。 備品などが何もない状態の館内を一足先にお披露目しました。





大勢の方が聞き入っています



#### 「関係者向け内覧

**日時:** 平成 24 年 12 月 14 日 (金) 10:00 ~ 11:00、11:00 ~ 12:00

#### [一般向け内覧会]

**日時:** 平成 24 年 12 月 15 日(土)10:00 ~ 11:00、14:00 ~ 15:00

#### [施設見学会]

**日時:** 平成 24 年 12 月 21 日(金)~ 23 日(日) 10:00~ 12:00、14:00~ 17:00



## 彫刻 1,000 体ツクルンジャー コタロニカ大図鑑プロジェクト

対 1,000 体ツクルンジャーは、前橋出身の現代美術作家、関口光太郎さん発案で、前年度から賛同する市民とともに取り組んできました。今年度は前橋市立城南小学校・群馬県立聾学校・長昌寺保育園などで、ワークショップが行われ、現在 687 体完成しました。

本プロジェクトは、市内小学校や保育園等、教育機関・施設と共同で行うアウトリーチプログラムとして展開し、1,000 体の完成に向けて、継続中です。







**d** a t a

事業名称: 彫刻 1,000 体ツクルンジャー

## [概要]

- ●平成24年2月16日(木) 前橋市立城南小学校3年生と保護者、群馬県立聾学校児童
- ●平成 24 年 12 月 1 日(土) 長昌寺保育園 園児と保護者
- ●平成25年2月14日(木) 前橋市立城南小学校3年生と保護者、群馬県立聾学校児童
- ●平成25年2月15日(金) 前橋市立総社小学校2年生

50



用民国物艺术

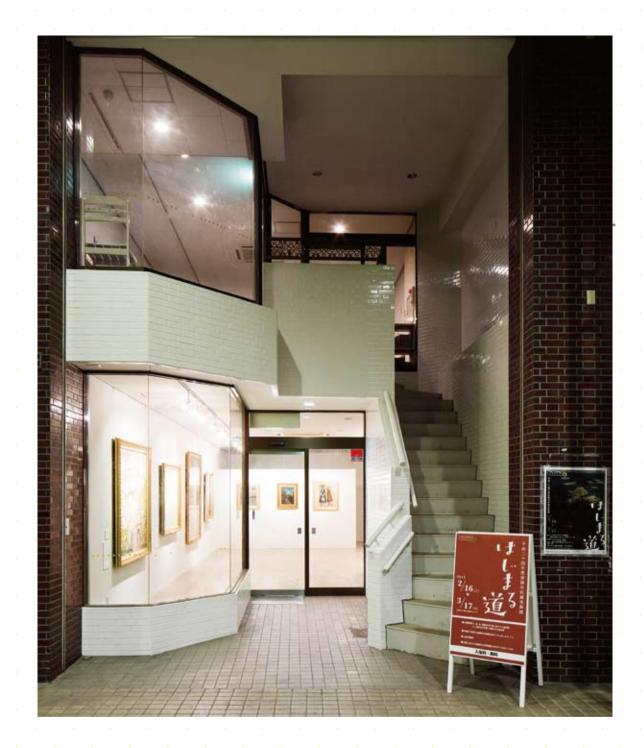


17 成 23 年 7 月から平成 25 年 3 月まで中央通り商店街アーケード内ミニギャラリー 千代田 2 階部分を「市民活動拠点」として運営しました。芸術分野や前橋という 地域についての資料、書籍、雑誌などを閲覧できるスペースと、打合せスペースを併設し、自主的な市民活動に行かせる場として活用しました。1 階部分は無料で利用できるミニギャラリーとして市民へ貸出を行い、平成 24 年度は 22 団体の利用がありました。

地域の人々の作品発表の場として、運営を手伝う学生サポーターのミーティングスペースとして、また ワークショップ会場としても使用しました。



活動の様子を伝える展示(左上)/学生サポーターのミーティング風景(右上) ギャラリーで学生が中心になって実施したワークショップの様子(下左右)



**d** a t a

## [運営日]

毎週火、水、木曜日 13:00 ~ 17:00 (上記の曜日が祝日の場合、年末年始、ほか臨時休業日は除く)

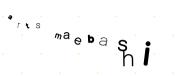
## [沿革]

平成 11 年 12 月 開設

平成23年7月2階部分を市民活動拠点として利用

平成25年3月1階ギャラリー及び2階市民活動拠点を閉鎖









覧イベント「WALK あるくことからはじまること」では、今までのプレイベントの取り組み、これからのプロジェクトなどを知っていただくための各種展示と、ワークショップ、トークなどに加え、総勢 130 名もの出演者による、パフォーマンスがくりひろげられました。

プロのアーティストと、子供から大人までの市民の有志によって、音楽とダンスと演劇の要素を組み合わせ作り上げられたパフォーマンスは、、観客をも巻き込みながら、大きな盛り上がりを見せました。





 $(\mathbf{d})$ a  $(\mathbf{d})$ 

事業名称:美術館プレイベント vol.23 内覧イベント「WALK あるくことからはじまること」

開催日時: 平成 25 年 3 月 23 日 (土) ~ 3 月 24 日 (日) 13:00 ~ 19:00

会場: アーツ前橋 (群馬県前橋市千代田町 5 - 1 - 16)

主催:前橋市/前橋文化推進会議

会期:平成25年3月23日(土)~3月24日(日)



#### ●音楽+ダンス+演劇の時間:両日とも 14:00 開演(約1時間のパフォーマンス)

コンセプト・総合演出:山賀ざくろ

朗読劇作・演出:小出和彦

出演:水谷晃(群馬交響楽団コンサートマスター)/市立前橋高校吹奏楽部/石坂亥士(打楽器奏者)/ほうほう堂(ダンスデュオ)/鈴木優理子(ダンサー)/山賀ざくろ(ダンサー)/前橋市近郊の幼児と小中学生、演劇人有志

#### ●展示+ワークショップ+トーク:両日とも 13:00 ~ 19:00

- A「アートスクール」:マエバシ文化発信局 zine 制作/前橋文化年表制作
- **B**「地域アートプロジェクト」マチリアルプロジェクト/ダイニングプロジェクト/ガーデニングプロジェクト
- C「彫刻 1,000 体ツクルンジャー」展示(前橋市立城南小学校・群馬県立聾学校・長昌寺保育園 他)
- D 市民参加を考える前橋文化推進会議による【アーツ前橋アイディアマップ】
- €「つなげる×つながる」講師:西澤明洋(アーツ前橋のロゴ/サイン制作者) 23 日 15:00 ~ 18:00
- ▶「街にひろがる絵」講師: TokyoDex(カフェスペース壁絵の制作者)23 日 13:00 ~ 16:00



# vol.23 内覧イベント







打楽器奏者の石坂亥士さんと清心幼稚園のこどもたち によるコラボ!



ブラスバン<mark>ドは、街にも繰り出</mark>しました!







不思議な朗読劇!がはじまりました





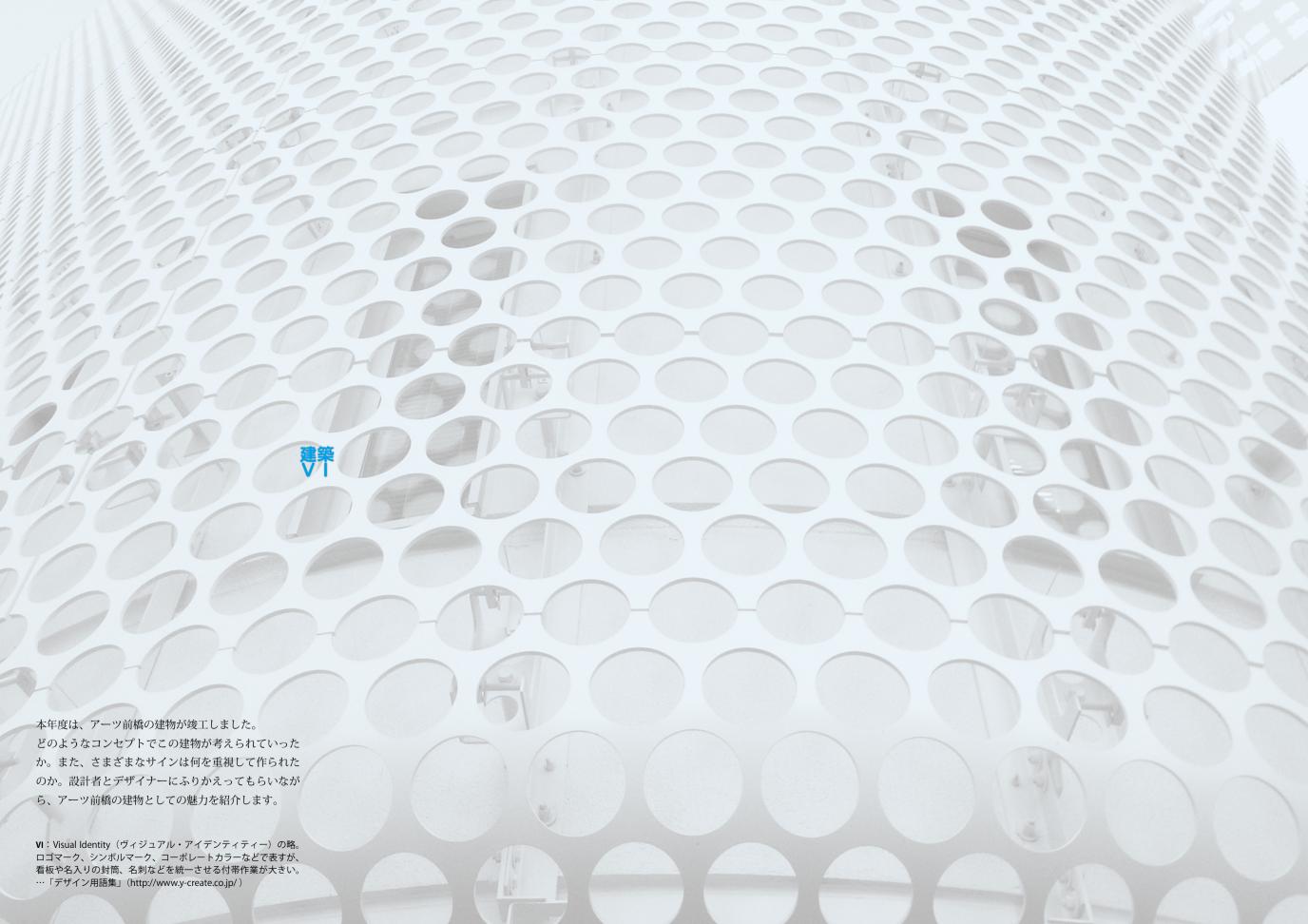


市立前橋高校吹奏楽部のブラ スバンド!



群馬交響楽団コンサートマスターの水谷晃さんのバイオリンソロで踊る小学生たち







## アーツ前橋 建築デザインの概要

街地中心部にある既存商業施設がコンバージョン(既存建物の用途変更)により「アーツ前橋」として生まれ変わりました。地下1階から2階部分を改修し、美術館を誕生させると同時に、街のにぎわいの創出につなげることを目的としています。

アートでつながる市民の創造力という基本理念の考えを継承し、さまざまな意味でまちと美術館をつなげていくということを大切に考えています。建築のデザインとしては、①施設全体を周遊する散歩道のような美術館とする、②既存建物の姿(記憶)を大切にしコンバージョンの魅力を最大限引き出す、③展示ばかりでなく市民が積極的に利用できる魅力的な場所づくりをおこなう、という3つを大きな考え方として計画をしています。

#### 1. まちの顔となる新しい美術館の外観デザイン

- ・外観は美術館とまちとを結びつける重要な部分と考え、既存の施設のゆるやかな曲面状の外形を場所の記憶 としてとどめながら、新しいまちの顔としての表情づくりをおこなっています。
- 施設全体のシンボル性を高め、まちの中心部の新たな文化拠点であることをアピールします。
- ・まちとダイレクトにつながる1階はまち行く人が気軽に立ち寄れ、市民に開かれた美術館として多くの来館 者に訪れてもらえるようオープンな表情をつくっています。

#### 2. 回遊する展示空間により全体がつながる美術館

- ・美術館内部は平面的・断面的に多様なヴォリュームの展示室が連続しながら施設全体をつなげていく施設構成となっています。
- ・来館者がぐるりと施設をめぐり、美術館の機能、建築の魅力、人々の活動に出会う施設となっています。
- ・回遊動線の中に、空間をつなげる開口部を設置することにより、連続した空間の中でアート作品へ接する体験ができ、本美術館の特徴的な空間づくりとなっています。

#### 3. 既存建物を活かす(コンバージョンの魅力を表現する) さまざまな仕かけ

- ・施設内の空間は既存建物の躯体等の特徴を活かした空間づくりをおこなっています。
- 既存の吹き抜けを活かし、上下階の連続性をうみながら広がりのある展示空間を創出しています。
- ・既存階段を部分的に改修し、展示室として生まれかわります。

#### 4. つながる場所づくり

- 人が留まって心地の良い場所づくりをおこないます。
- ・1 階交流スペースは、一体的に計画し、アーカイヴ、ショップ、カフェなどの機能が点在しています。来館者が展示作品の魅力を楽しむだけでなく、積極的に利用できる場所づくり、美術館の活動への参画を誘うきっかけとなる場所づくりをおこなっています。

#### 5. まちへ

・美術館の活動が、美術館を中心にまちの中に波及し、成長していくような施設づくりをめざしています。

水谷俊博建築設計事務所一級建築士事務所

#### 水谷 俊博

みずたに としひろ/建築家・武蔵野大学准教授

1970 年神戸市生まれ。京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了。株式会社佐藤総合計画を経て、2004 年水谷俊博建築設計事務所設立。第 37 回 SDA 賞地区デザイン賞(2003 年)、日本建築協会第 51 回青年技術者設計計画部門顕彰(2004 年)、町田市鶴川駅前公共施設設計プロポーザル入選(2008 年)、東京デザイナーズウィーク 2010 学校賞 GRAND AWARD 賞 受賞 (2010)、住まいの環境デザインアワード特別賞(2011)など。主な建築作品に『Off The Wall 石神井台の家』(2010 年)、大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2009 出展作品『アーチの森 2009』(2009 年)、『One Plus(+) One 羽鳥の家』(2007年)など。著書に『建築思潮 05 漂流する風景・現代建築批評』(1997年 学芸出版社 共著)、『文化がみの~れ物語』(2002年 茨城新聞社 共著)、『環境デザインの試行』(2007年 武蔵野大学出版 共編)など。建築設計の他、武蔵野市、西東京市、東京都豊島区などでまちづくりワークショップ・プロジェクトを手がける。現在、武蔵野大学環境学部環境学科都市環境専攻准教授。



## V I (ヴィジュアル・アイデンティティ) について

ソ前橋は、美術を中心にジャンルが多様であること、参加形態が多様であること、コラボレーションによっ て新たなものが生まれることを目的とし、前橋市民が、経営管理、企画運営、評価、推進に主体的に関わ れる芸術文化施設です。

本施設の外観は、商業施設として活躍していた旧施設の建築を、コンバージョンにより白いパンチングメタルで 覆い、施設とまち、前橋の過去と現在をつなぐ象徴的なデザインとなっています。このパンチングメタルを基点に、 VI 及びサインデザインは、「点と点をつなぐ線」をコンセプトとしています。そして、バラバラの点(穴)を一本 の線でつなぎ、文字やピクトを創り出すデザインとしました。

ひとつひとつの点は、人、まち、アート等の様々な要素を表しています。そして、それらをつなぐ線は、アーツ 前橋の活動を表しています。シンボルとなるロゴマークも、前橋の「前」と「M」をモチーフとし、全ての文字 が見えない点と線でつながっています。この点と線の関係は、今まで何も無かった空間に新たな形を創り出すク リエイションの力であり、アーツ前橋がその活動を通じ、人と人、人とまち等をつなげるプラットフォームとして、 アートの新しい可能性を示していくことを象徴しています。

西澤 明洋

## 西澤 明洋

にしざわ あきひろ (株式会社エイトブランディングデザイン) / ブランディングデザイナー

1976年滋賀県生まれ。エイトブランディングデザイン代表。「ブランディングデザイン」という視点のもと、企業のブラン ド開発、商品開発、店舗開発などを手掛け、グラフィック、プロダクト、インテリアなど幅広いジャンルでのデザイン活動 を行っている。「フォーカスRPCD®」というリサーチからプランニングまで含めた一貫性のあるデザイン開発手法は、多 方面より高い評価を得ている。主な仕事にプレミアムクラフトビール「COEDO」、抹茶カフェ「nana's green tea」、信州味噌「ひ かり味噌」、近畿日本鉄道「上本町 YUFURA」、キリンビバレッジ「生茶」など。グッドデザイン賞、PENTAWARDS、 THE ONE SHOW をはじめ、国内外の受賞多数。著書に『ブランドをデザインする!』(パイ インターナショナル)、『ブラン ドのはじめかた』、『ブランドのそだてかた』(日経 BP 社)。



## 建築経過

●外製 既存施設のゆるやかな曲面形状の外形に沿って、孔のあいたアルミのパンチングメタルを設置し、新しい施設の顔をつくりました。







●1Fエントランス 人々を迎える総合案内がアーカイヴと一体的につくられました。







●ギャラリー1内部 エスカレーターを撤去することで生まれた中央吹き抜けにより上下階が連続した展示室となりました。







●プロムナード 上下階を散歩道のように結んでいく空間が出来上がりました。大きな梁は既存の姿を残し、アーツ前橋の見所のひとつとなっています。







●地下1F ギャラリー2 壁面にあけられた開口や上部の吹き抜けにより、上下左右に気配が伝わる展示室となりました。







●地下1F ギャラリー5より見通す さまざまな大きさの展示室が連続し、施設全体を結んでいきます。







\*画像提供(p62,63,66-69):水谷俊博建築設計事務所一級建築士事務所



## 建築 ⇄ デザインメール 対談

#### 水谷さんとの対話

◆今からもう2年以上前になるわけですが、はじめに設計 案の提案を出したとき、ほかの案と比べて優れているとい う自信があった部分はどこでしたか?



#### | 水谷さん |

"まちへつながる美術館"を設計のコンセプトとして、施設 全体を周遊する散歩道のような美術館とすることを考えま した。多様な展示室が連続しながら施設全体をつなげてい く構造は特徴的だと思います。

来館者は施設を巡る間に設けられたさまざまな大きさの開 口を介して、作品や建築の魅力、人々の創造活動に出会う ことになります。

◆繁華街がすぐそばにある立地や、既存の建物の改修工事 という条件面の特徴はどのように受けとめて、活かせまし たか?



#### | 水谷さん |

まちにとても近い立地ということは非常に魅力的だと捉え、 先述した設計コンセプトを立てました。また既存建物の改 修ですので、市民のみなさんにとってゆかりのある建物の 姿(記憶)を大切にしたいと思いました。そのため、随所に 元の姿を残しながら新しい空間をつくっています。

◆それがとても難しいと感じられた点はどんなところです か?

#### |水谷さん|

難しい点は、やはり改修ですので、解体してみないと分か らない部分というのがありますので、施工中の対応は苦心 しました。

◆この外観のデザインというのはどのようにして出てきた アイデアなのでしょうか?

#### 一水谷さん

既存施設の緩やかな曲面状の外形を場所の記憶としてとど めながらも、新しい衣装をまとうようなイメージで、全く 違ったまちの顔としての表情づくりができればと考えまし た。デザインモチーフはできるだけシンプルにしたいと考 え、丸い孔が開いたアルミ板を採用しています。

ただここにたどり着くまでは、素材やディテールの計画、 施工性を含め、さまざまな案を試行錯誤しながら考えたと いう経緯があります。また、照明計画にも配慮をおこない、 アルミ板と既存の壁の間に照明を仕込むことにより、とて も魅力的な夜の景もつくりだせていると思います。

◆これまで手がけられてきた設計と比べて、どこに一番や りがいがありましたか?

| 水谷さん |

市街地中心部にある既存商業施設をコンバージョンにより 本格的な美術館に生まれ変わらせるというプロジェクトが、 全国的にとても先駆的なことと思いますので、そのプロジェ クトに携われたことが一番のやりがいであったと思います。

◆一番難しいことはどこでしたか?

#### |水谷さん|

難しいことはすべて難しかったと言えますが(笑)、やはり この先駆的なプロジェクトにしっかりとした解を示すこと が重要だと思いましたので、その責任というものが難しく もあり、裏返しにやりがいのあることだったと言えると思 います。

#### 西澤さんとの対話

◆今回のロゴやサインのデザインにおいて、これまでの西 選さんの仕事にはなかった独自のアイデアというのはあり ますか?それはどんな点ですか?

#### |西澤さん|

今回は美術館の運営サイドの思いと、水谷さんの建築デザ インがアイデアの着想にあります。既存の建築を包む白い パンチングメタルのファサードは、いろいろな意味でこの 美術館のアイデンティティを象徴していると思いました。 そこで「点と点をつなぐ線」というアイデアで、このパン チグメタルの穴(点)に紐(線)を通して、ロゴやサイン などのデザインを行いました。

これはいわば「ルールのデザイン」であり、このルールか ら作られるデザインが、美術館で積極的にみなさんに使っ ていただくことや、そこからさらに街にまで浸透していく と面白いと考えました。こうした多くの人が参加可能なデ ザインというのは、我々の仕事の中でもあまり類を見ない ものです。

◆おそらくいろいろなアイデアが出ては消えを繰り返して きたと思いますが、最終案を決定していくうえで大きな要 因となるのはなんだと思いますか?今回のプランはどのよ うに最終案を絞りましたか?

#### |西澤さん|

我々はデザイン開発の段階でかなり多くの案を出す方で、 今回も100案以上は検討しましたが、形態だけで主張す るデザインよりも、行為を促すような、いろいろな人の参 加の余地がある今回の「ルールのデザイン」は、アーツ前 **橋らしい案だとプロジェクトメンバー全員の一致した意見** でした。

◆そうですね。このデザインは、見た目だけでなく、アイ デアの点でもいろんな人に愛されていくと思います。もし かすると、これまで手掛けられてきた企業のブランディン グとも違う発想があったということでしょうか。多くの人 が社会貢献やボランティアなどの活動をするようになって いることとデザインのあり方も関係していると感じること はありますか?

|西澤さん|

我々はブランディングを専門とするデザイン会社です。ブ ランドのデザインとは一般的に固定的な変わらないもの、 と考えられがちですが、私はどちらかというとそれには懐 疑的です。特にこの早いスピードで物事が変わっていく時 代に、変化を許容できないデザインは実は弱いデザインな のではないかと考えているところがあります。

我々のブランディングデザインでよく考えているのが「成 長するデザイン」です。VIルールに変化を許容できるしく みを作っておき、ブランドの成長とともに変わっていける デザインをいくつかの案件で実践しています。

◆そうすると、これまで西澤さんの仕事になかったデザイ ンのアイデアが、アーツ前橋の活動コンセプトと出会うこ とで生まれたと考えてもいいのでしょうか?

### | 西澤さん |

今回のデザインは、その「成長するデザイン」の発展形か なと思っています。デザインの対象が企業から、より多く の人となった事で、その変化の許容度は大きく拡張したつ もりです。

◆建築を前提としたデザインになるので通常のグラフィッ クの仕事とは違う、三次元の空間に展開する仕事になりま したが、どうでしたか?



#### 一西澤さん

このようなサインのグラフィックを考えるとき、平面的な 思考だけでデザインを考えると最終的に制作する際にデザ インの良さが損なわれたりします。今回は三次元的に生き るデザインとは何か、ということを最初から考え続けてい ました。三次元としても二次元としても強いデザインを今 回の理想としたのです。

◆いろいろ制約もあったかと思いますが、デザイナーとし て面白かった点や、やりづらかったことはなんでしょうか?



| 西澤さん |

建築という三次元の要素からデザインの着想を得られた事 は、大きなアイデアの飛躍があったかと思います。制約が 逆にデザインを強くした、そのように感じています。

◆そうですね、デザインは人々の注意力をつくる、とても 重要なものだと思います。そういう点で平面のグラフィッ クだけでなく、施設の中をどう利用者が動くか、あるいは 何を眼にするかを意識するものになっていて、とても使い やすそうです。利用者としては、様々な年齢、あるいは外 国人、そうした幅広い人たちを想定するユニバーサルなデ ザインを意識したいと思っていたのですが、今回のデザイ ンでそうした利用者の観点で意識したことは何ですか?



#### | 西澤さん |

言語にたよらない分かりやすい表現としてピクトグラムが ありますが、今回は点と線のルールでロゴなどと同様にデ ザインしています。サインデザインには「見て分かる」と いうことがまず求められます。

この分かりやすさとは「サインの意味」としての分かりや すさだけでなく「アーツ前橋らしさ」の分かりやすさでも あると我々は考えています。館内のいたるところでそのサ インの意味と同時にアーツ前橋らしさを繰り返し表現する ことで、より多くの人にアーツ前橋へ愛着をもってもらい たいと考えています。

◆聞き手:住友文彦 \*メールによる対談

ピクトグラム:絵文字、絵ことばの総称。…「広告用語辞典」(http://

アーツ前橋/ 1F

1

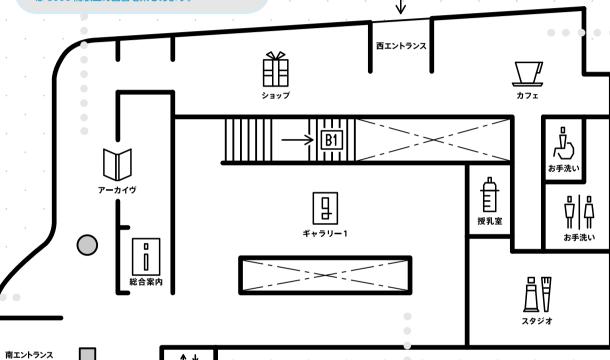
1F

 $\rightarrow$ 

↑ ↓ EV



アーカイヴ・カフェの内装材は、木質系の素材感が豊かな OSB を利用しています。アーカイヴでは 3000 冊以上の図書を楽しめます。



お手洗い

外壁のパンチングが館内まで続きます。



上下階の展示室をつなぐ吹き抜け部分には、かつてエスカレーターがありました。よく見ると柱にはシャッターボックス等のかつての建物の名残があります。





孔のあいた金属 (パンチングパネル) によってゆるやかな曲面を描く外観は、かつての面影を残します。

アーツ前橋/B1

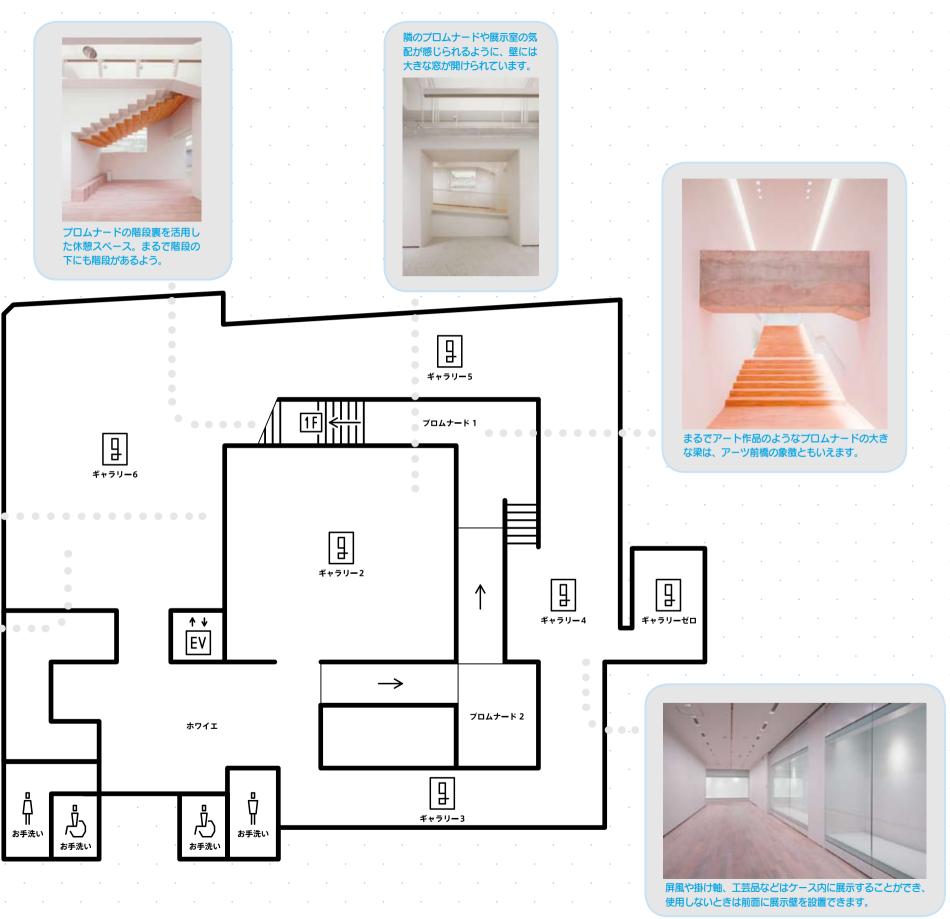
B1

大きな可動展示壁によりギャラリーの仕切りを変え、展示室の使い方もいろいろなことが可能。





光が豊かな展示室になっています。





3-6"E

美術館の 禁止事項 ナショ

作家とかかかる

子どものための

702116-4

市民参加

アーツ前橋では、市民の参加を重視しています。

単にアーツ前橋のお手伝いをしていただく、というだけでなく、アーツ前橋の事業や運営に主体的に市民が関われるような仕組みをつくろうと、市民と行政とで対話をしながらさまざまな可能性が検討されています。

芸術文化施設運営検討委員会と前橋文化推進会議は、タウンミーティングやアーツなカフェの開催などを通じて多くの市民の関心と主体性を喚起しようとしてきました。

その取り組みを紹介します。

子ども向けの 体験展示 あるべる作品 イメーシ"を

展示以外の イバント コンサート・WS など

第2回アーツなカフェで市民によって作成された、アーツ前橋ア イディアマップより

**参加者机** 

ュージア

十八,

参加者

ニューシ

## [前橋市芸術文化施設運営検討委員会

成21年に発足した「美術館基本構想検討委員会」から提出された基本構想をうけ、平成22年「美術館基本計画検討委員会」が作成した基本計画の高い見識に敬意をはらい、平成24年、3月に設置。「次世代のためになにを手に入れられるのか」の検討を行いました。芸術文化施設運営検討委員会から、検討経過を市民の方に説明し、広く意見を求め、提言のとりまとめの検討材料にしたいとの意見があり、タウンミーティングを開催することになりました。タウンミーティングには約100名の参加がありました。



(d) a t a

#### [メンバー]

中島信之(委員長)、塩崎政江(副委員長)

西林乗宣、渡邉正義、喜多村徹雄、坂本敏、野本文幸、中村ひろみ、添川秀樹、金井訓志、中台澄之、三友千春(一般公募)、岡田達郎(一般公募)、本川美輝(一般公募)

#### 「スケジュール〕

#### ●4月26日(木)

第1回検討委員会

開会

市長あいさつ

委員自己紹介

委員長・副委員長選出 芸術文化施設運営検討委員会について (概要説明)

検討

## ●5月17日(木)

第2回検討委員会

スケジュール案の説明

第1回目のまどめ

市民参加の方法、市民交流ゾーン(カフェ・ショップなど)、広報、情報発信、地域連携について検討

●5月28日(月)

第3回検討委員会

この施設が推進すべき芸術文化、運営組織についてなどを検討

●6月4日(月)委員長・副委員長作業「今後の提言の進め方」

● 6月11日(月) 作業部会「提言案及び公聴会について」

● 6 月 12 日 (火) 公聴会準備

● 6月 16日(土)14:00 ~ 16:00 公聴会(タウンミーティング)

- 1. 開会
- 2. 工事進捗状況説明
- 3. 運営検討委員会について
- 委員会の設置経過
- ・これまでの検討内容
- 4. 意見聴取
- 5. 閉会

● 6 月 18 日(月)作業部会「提言案について」

● 6月25日(月)第4回検討委員会 提言(案)、ネーミングについて検討

● 7月5日(木) 「芸術文化施設のあり方に関する提言」提出

\* 検討委員会や提言書については、前橋市 HP を参照 http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/230/263/265/p009143.html

#### [提言要旨]

- 1. この施設が推進する芸術文化について検討した結果、「多様で質の高い文化」を推し進めること。
- 2. 前橋市民が、経営管理、企画運営、評価、推進のいずれの分野にも主体的に関わりを持てるようなシステムの構築を目指すこと。
- 3. 施設開館までの期間、市民に対して周知を図るため、市民集会、公聴会、イベント等を開催、市民参加を促すために継続的な文化推進会議の設置を提案すること。
- 4. 継続的に優れた作品を収集して、前橋の文化を体系的なものとして整備していくこと。
- 5. 教育機関等と連携し、次世代の芸術文化を担う若者の育成を行うこと。
- 6. 新しいメディアを駆使し、地域間、世代間の情報格差の是正に努めること。
- 7. この施設が牽引役となり近隣の公共・民間施設と連携しソーシャルワークを創出すること。

## [前橋文化推進会議]

対して関知を図るため、市 民集会、公聴会、イベント等を開催し、また市民参加を促すために継続的な活動をする組織とし て、平成24年9月に設置。月1回の定例会議(非公開)、HP、SNSによる情報発信、2カ月に一回のアー ツなカフェ、アーツ前橋の内覧イベントなどの開催、また、テーマごとにプロジェクトチームを組織し、 市民参画のフレーム作りなどの継続的な議論などを続けながら、現在活動中です。



(d) a t a

#### [メンバー]

喜多村徹雄 (議長)、福西敏宏 (副議長)

片倉正彦、栗原沙苗、小出和彦、酒井敦朗、寺澤徹、中島美江子、中島信之、中村ひろみ(初代議長 平成 25 年 1月に議長および委員を辞任)

#### 「スケジュール」

- ●第1回アーツなカフェ「アーツ前橋って、なんなん?」平成24年10月21日
- ●第2回アーツなカフェ「今から考えなくっちゃいけないこと」平成24年12月15日
- ●第3回アーツなカフェ「アーツなトーク市長とアーツをアツく語る。」平成25年2月25日
- ●アーツ前橋内覧イベント「Walk あるくことからはじまること」平成 25 年 3 月 23 日・24 日→本書、54 ページ~58 ページを参照。
- \*一連の活動は、前橋文化推進会議 HP、SNS などで公開されている。

http://maebun.web.fc2.com/ https://www.facebook.com/maebunsui

# 運営検討委員会 · 文化推進会議合同座談会

●アーツ前橋サポーター室にて

●出席者:[運営検討委員会] 中島信之委員長 塩崎副委員長

[文化推進会議] 喜多村議長 福西副議長 [文化国際課] 山本室長 辻学芸員

#### 運営検討委員会の設置の経緯

福西:本日はお忙しい中、お集りいただきありがとうございました。それでは、アーツ前橋と市民との関わりの記録として、運営検討委員会、文化推進会議という一連の流れを振り返っていただければと思います。まずは、運営検討委員会の設置に関してですが、どのような経緯だったのでしょうか。

中島:2012年の3月の市長選で市長がかわった ことに伴って、市長から諮問を受けるという形で、 すでにさまざまに検討されてきたこの施設の運営 について再検討すべく、運営検討委員会が設置さ れたわけだよね。ある種、選挙という政治的な背 景もあったわけだけれど、自分としては政治色抜 きに考えたかった。

**喜多村**:私は、それ以前から、美術館ができるということで、美術について語り合う場を、定期的に街中で開いていたんです。市長選直後のその集まりに非常に多くの方が参加され、美術館に関しての市民集会的な場になってしまったのに驚きました。まず、なぜ運営について再検討が必要だったのかが、問題としてありましたよね?

塩崎: ただ、それについては、第1回の運営検討 委員会の場で、市長自らが出席して、「もう一度、



市長の交代による、準備段階に入っていた前橋市美術館の計画が 大きく変更されることについてのまとめ、その4です。 ばらばらだったツイートが、かみ合い始め、さまざまな対話が始 まり、議論が深まってきています。

by fukunny



@fukunny 多くの人にとって、見たこともないものを想像する ことは本当に難しい。

したがって、前橋の新美術館計画が、他都市にある美術館とは一線を画す新しい機能体が目指されていることなど、なかなか理解 されないと思う。#前標 #美術館

kurosawashin 2012-03-24 14:44:59



まして、そもそも関心がない個人であればなおのこと、市長であっても同じでしょう。

だから、イメージされている美術館が本当に素晴らしいのもであ るなら、それを理解できる人達によって、はっきり、具体的に、 多くの人達の「目にものが見える」ようにしてゆく必要があると 思います。#前機 #美術館

专组会

kurosawashin 2012-03-24 14:48:05



◎desdes0820 たとえば美術館の中で演劇をやる…というだけでなく、アートとして、美術と演劇が融合する、または美術のような演劇のような「新たな表現」を可能にする、こともありだと思います。それは音楽やダンスや映像や書、もしかしたらお草やお茶とも可能なのではないかと思います。

为政众

bonmedia 2012-04-08 00:47:05

78

本当に市民にとっての施設にするにはどうしたら いいか考えてほしい」という発言があり、それに よって委員会の方向性が見えてきたかな、という 気がしました。

福西:私は運営検討委員会には入っていなかった ので、公開の会議にオブザーバーとして話を聞い ていた立場でしたが、確かに、一連の流れは、政 治的なレベルの話とは別に、納得できるところも ありました。私は当時ツイッター上で、前橋の美 術館についての議論をまとめたりしていたのです が、それまで美術館として構想され検討してきた ことについて、その内容の善し悪しはともかく、 その時点では必ずしも多くの市民が情報をきちん と共有できていたとは言えなかったように実感し ていましたから。

中島:この施設をどうしたいのか?ということが 市民に託されたのだと思います。そこで、とりあ えず、それまで検討されてきたことをいったん白 紙に戻し、協議してほしいということだったわけ です。

**塩崎:**ただ、第1回目の時点ですでに建築自体は ほとんど出来上がっていたので、前提として、建 築のことまでは踏み込まずに、運営の部分をどう するかにしぼって検討してほしいということだっ たと思う。



提言書は、中島委員長から直接山本前橋市 長に手渡されました。

喜多村:建物に関しては、軽微な変更しかできない、 ということだったですね。

中島: それを踏まえて、ならば、上質なものをめ ざそうよ、ということで第1回目がスタートした。 **塩崎:**ただ、4月26日に第1回がありましたが、 全4回で、しかも1回はタウンミーティングの形 だったので、実質3回の会議で成果をださなけれ ばならなかった。これは大変でしたね。

喜多村:よく4回でここまでやりましたよね。

**塩崎:**だから、公開の場とは別に、ほとんど毎週会っ て話しあってたじゃない?

中島: 今考えると、そんなに短期間に急いでやる 必要があったのかな。

山本:でもそのおかげで、その間、すすめなけれ ばいけないのに、ストップせざるを得なかった事 業が早い時点で再開できたわけですから、われわ

れとしてはありがたかったですよ。

**塩崎:**でも、いろいろ急いでやらなきゃいけない のに、第1回目の会議では、ほとんどの時間を使っ て、委員長は他の委員の本音を出させたんですよ。 建築のことは踏み込まないはずなのに、もうちょっ とエレベーターがおおきければ、とかダンスや演 劇やるんだったらここをこうしなきゃとか、私は 横で聞いていて、そんなことを聞いている時間は ないんじゃないか、とハラハラしていたんですけ ど、でもあれでみんな本音を叶き出せたので、2 回目につながったという気がしていて。

福西:確かに、第1回では、踏み込まないはずの建 築の話をずいぶんしていたような記憶があります。

@bonmedia 拝見しました。報告ご苦労様です。こういう集ま りが生まれることがとても面白いです。プレ美術館を感じます。 報告みると、どなたの見解もリアリティありますしね。ちなみに 美術館予定のビルは天井高等の面でいわゆる劇場には向かないか も。 (天井高は美術館としても?ですが)。

kurosawashin 2012-04-08 16:28:58



プレ美術館は、<u>@kurosawashin</u>さんがおっしゃっていた「まだ 見ぬ彼らを信頼する」ところに生まれるのでしょう。私は、ぐん まの演劇人の議論が盛り上がると同時に、「我々は美術館にとっ て『まだ見ぬ彼ら』に当たるのかもしれない...」という謙虚さも 持ち合わせていることを誇らしく思います

bonmedia 2012-04-15 23:37:27



市長へ手渡された提言書の表紙と目次。



天井高については美術館にとって悩ましいことと思いますが、演 劇は、立派な四面舞台でも振立小屋でも野外でもできます。むし る県内の演劇人は「劇場」ではないところをいかに劇的空間に作 りかえるか、のほうが得意かもしれません。どこも予算的に潤沢 ではありませんから。@kurosawashin

bonmedia 2012-04-15 23:40:31

**塩崎:**無理な話をしていても仕方がないのでそれ じゃあ中身の話をしよう、と1回目の終わりで会 議がひとつにまとまった。それで、委員長すごいな、 と思ったんです。

中島: それは褒めてくれているの

ね?

**塩崎:**そうですよ! (笑)

**福西:**オブザーバーの立場としては、質問もできなかったり、また情報公開という意味でもツイッター中継などは禁じられていたり、当初は市民があまり信頼されていないのでは、とちょっと残念に思ったところもありました。

**塩崎:**限られた時間の中で、委員同士も話をしなければならなかったので、正直、委員以外の人の話に対応している余裕まではなかったですね。

**喜多村:**市民が信頼されていないといっても、運営 検討委員会が市民代表として選ばれているわけで、 その、間接民主主義という形を信じてもらわない ことにはどうにもならない。それは現在の文化推 進会議でも同じ問題を感じることがありますね。

## 運営検討委員会を終えて

**福西:**運営検討委員会を終えた段階ではどうでしたか?

**塩崎**: 運営検討委員会に限っていえば、駆け足だったけど、私は一見遠回りしたようでも、やってよかったんじゃないかと思えます。

中島:私も同意見。とてもいい検討ができたとい う自負がある。

**喜多村**:継続中の文化推進会議の議長としては、 まだその言葉が言えない! (一同笑)

**福西:** どういったポイントがよかったと思われますか?

中島: こういった形で議論されていることが、さまざまなチャンネルでより多くの市民に周知されていったことが大きい。政争からはじまったが、この議論の過程で、施設の運営のあり方を市民主導で考えることがスタートできたことに価値があったと思う。

**塩崎:**それまで美術館は他人事だと思っていた人たちに、関心をもってもらえることにつながっ

たと思う。私自身も美術の専門家でもないし、他のメンバーのほとんどと面識もなかったけれど、話し合いを重ねて、いろいろなことが分かってくればくるほど、一つの合意を生み出すのなら、みんなが納得のいく形にしたいと思うようになりました。またお互いに仲間意識が芽生えてきましたわ



タウンミーティングでの様子



山本:さまざまな立場のそれぞれの希望をこの施設にどう反映させるのか、というのではなく、それらをうまく反映させるのにはどういった仕組みを作ればいいか、という方向になったのがよかったと思う。結果としてそれぞれが言いっぱなしにならず、いっしょに考えることにつながったように思います。

**喜多村**:自分は作家という側面もあって、芸術や文化というものに、政治や経済といった視点をあまりいれたくない。文化は文化の中で語りたいという思いが強かった。それで、委員会当初はメン



前橋市民…というか、前橋の観客は、どちらかというと大きな声 を出す人たちではないけれど、しっかり、じっくり見る人達です 。ことによると、声を出さないことによって失うものもあります が、ものはきちんと見ている。それは、少なくとも、前橋で観客 の前に立つと感じます@kurosawashin

为红竹

bonmedia 2012-04-15 23:44:45



23日の「朝日ぐんま」に前橋夜話についての記事が載った。ぼ くは数日前取材を受けてたくさんしゃべった。結果、掲載された のはほんの一言。でも、記者さんはぼくのブログも見ていたし、 理解のある人だった。いずれにせよ、前橋市美術館問題が記事に なり、多くの人の目にふれることが大事なのだ。

RyutoArai 2012-03-25 01:28:42

ć li<sub>+</sub> li z 'e ni , \$ ■ 'c o' u n c 'l ('

отешти ветева ете пт к

バーの政治的な背景を警戒してしまっていましたが、議論を重ねるうちに、メンバーへの信頼感を 持つことができるようになりましたね。

## そして、文化推進会議へ

**福西**:文化推進会議へと話を進めたいのですが、 運営検討委員会の中で、どのように文化推進会議 の必要性が考えられたのでしょうか?

中島:提言書を作っていく中で、これを渡して終わりということではなくて、我々としては、運営検討委員会で提言したことがきちんと実行されていくかを見守り、また市民の関心を高めていく必要があるということで、開館までのアーツに関する情報の周知を中心にした組織の設置を求める、ということだったと思う。

山本:行政の側としても、提言書で出されたことを実現するための組織として、やはり必要だろうという思いがあったと思われますね。市民と一緒に、みんなで作り上げていくんだというプロセスを重視したといいましょうか。

**喜多村**:結果として、多様な人材が文化推進会議に集まり、提言書の実現を目指して、それぞれの分野で知恵を出し合って、がんばっているというのが今の状況だと思います。ただ、現時点では、



FB とともに直ぐに立ち上がった文化推進会議のホームページ。

# 前橋文化推進令議

文化推進会議のロゴ。

前橋市にとっては非常に大きな意味を持ち、貴重な体験になっているとは思います。一方、前橋市民にとってもそうなのか、というと、我々の力不足もあって、まだまだそこは疑問かなあ、というのが正直なところです。

塩崎:私は文化推進会議には関わっていないけれ ど、運営検討委員会のメンバーたちは、提言書を だして、これで終わり、という風にはみんな考え ていないと思う。それだけでは、申し訳ない、と 言う思いと、物足りないという思いがある。

中島:前橋市民たちが、本当の意味でこの施設を

自分たちのものにできるのか、そのための独自の プロセスや仕組みとして前橋方式が問われている のだと思う。

**喜多村**: ただし、それを作っていくためには、どうしていったらいいのか、まだまだ不明確なことも多い。市民参加のためのきちんとした組織を作るというのは、実はとても困難なことでもあるんです。

中島:山は高いよね。

**喜多村:**そう、高い。そして険しい。

福西: たしかにそうですが、前例のない、市民参加のしくみを生み出すことができれば、それこそが前橋方式と呼べるものになるのではないでしょうか。文化推進会議では、アーツなカフェの開催や、SNSなどを使って、いままで関心を持ってこなかっ





カフェでの様子。。

起きてます。新潟、北九州への準備をする。前橋美術館問題は前 回の市民会議の話し合いを足場にさらに議論が進むことを期待し

yoshioshirakawa 2012-03-12 08:29:16



前橋の美術館構想見直して議論を呼び、芸術文化施設としてパー ジョンアップして、来年秋開館されるアーツ前橋。そこを中心と した前橋市の文化活動を推進する前橋文化推進会議による10月21 日に行われた第一回アーツなカフェのツイッター中継です。

by MaeBunsui

行政的壁电

A X8 Citizen

た人にも、関心をもってもらうべく努力し、一方で行政とのやりとりの中で、直接アーツの運営に市民がうまく関われるような仕組み作りに取り組んでもいる。その2つの方向の両側で、市民の間にも、異質な考え方があるし、行政とのやりとりの中でも市民感覚とは違った論理を感じることがある。それは確かに困難というべきものではあるけれど、異質な考え方や、論理が出会うことの中にこそ、新しい可能性もまた感じられるように思います。

**喜多村:**そういう意味で、短期的なことだけでなく、中長期的な目標というか、ビジョンを、いかにクリアにして発信していくかにかかっていると思いますね。

塩崎:私は前橋児童文化センターの館長でもあるのですが、児童文化センターは、今年で45周年を迎えたんですね。でも、現在でも45年前の精神がきちんと貫かれている。それは、当初の理念がしっかりしていたことと、ボランティアの人たちが継続的に関わってきたことがとても大きい。

#### 第1回アーツなカフェ

#### 「アーツ前橋って、なんなん?」 平成24年10月21日18:00~

中央公民館 55 学習室にて開催。50 人近い人に集まっていただきました。文化推進会議の説明、アーツ前橋の説明、そして参加者全員から、アーツ前橋への期待が語られました。







参加市民とともにこれからの「アーツ前橋」の姿 を模索する。

市民参加によって理念の持続性が保たれるという ことがある。

## 各個人にとっての市民参加の意味

福西: さて、一連の委員会、会議に関わってこられて、皆さんの意識の中で、変化したことがありますか?というのは、こういった試みの中で市民参加していくことの意味は、もちろん社会に貢献するということもあるのですが、一方で、市民参加をしていくことで、自分自身が変わる、成長する、という側面もあるように思うのです。私自身も今回文化推進会議に加わって、ずいぶん社会に対する見方が変わったように思います。

中島:私は、行政に対する考え方が 180 度変わった。 それまでは、行政に対しては否定的な思いが強かったが、これだけ、行政と密に関わってみて、行政 も捨てたものではない、こちらの思いをきちんと



アーツなカフェ、後半開始。学芸員の住友さんから、アーツ前橋 についての説明。

#buncafe

MaeBunsul 2012-10-21 14:21:08



参加者の自己紹介の後、休憩。いろいろな方がいらしています。 後半、アーツ前標の紹介とフリートーク! #buncafe

MaeBunsui 2012-10-21 14:08:30



いままでにない施設をつくりたい。

#buncafe

MaeBunsui 2012-10-21 14:21:42

サでに、プレイペントでいるいる企画をしてきた。ソフトの部分をどうするかを考えながら施設を作ってきた。 #buncafe MaeBunsul 2012-10-21 14:28:22 サポーターやイベントに市民が積極的に関わる形。 #buncafe

地域に住む、専門的な人 と協働して作っていく。 #buncafe

MaeBunsul 2012-10-21 14:29:23

蛇の中だけでなく、積極的に外にでていく企画を作りたい。 #b uncafeMaeBunsul 2012-10-21 14:29:44

美術館に来づらい人に出張して文化に触れてもらうような企画を 作りたい。 #buncafe MaeBunsul 2012-10-21 14:30:33

地域の魅力を発見していくようなプロジェクトを。 #buncafe

MaeBunsul 2012-10-21 14:30:59

citizen participation 87

© 専内家と市民 との関係は?

運営検討委員会と文化推進会議

D 情報公問の方法は?

● どっょうな評価の方きれるいか?

受け止めてくれる人たちもいるんだということをずいぶん感じた。

**喜多村:**私はまだ文化推進会議の議長として道半ばなので、結論付けるには早いと感じるが、実は、 運営検討委員会がまさに山場の時に長男が生まれたんです。

**塩崎:**それは大きな変化だったね。

**喜多村:**子供にこの美術館を見せたい、という思 も食べず、夜9時過ぎまで、一生懸命考え、話しいが生まれましたね。自分がこの美術館の立ち上 合い、意見をまとめ、よりよいものを求めていたげに関わったんだ、ということを伝えたい。 季昌の方たちのすばらしさ。多くの異なった立場

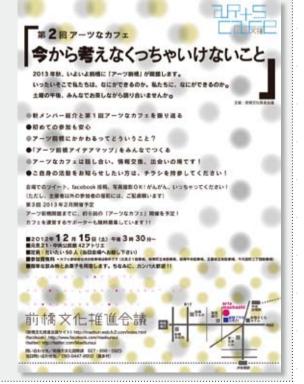
塩崎:私はずっと教育関係の仕事をしてきて、しかも幼稚園から大学まで、とても広くさまざまな教育機関に関わってきた。そして、教育関係の人たちはとても熱い思いを持った人が多いんです。でも、この委員会に関わってみて、社会は広い、と感じましたね。もっと熱い人たちがいた。直接自分の利益にもならないのに、仕事帰りに、夕食も食べず、夜9時過ぎまで、一生懸命考え、話し合い、意見をまとめ、よりよいものを求めていた委員の方たちのすばらしさ。多くの異なった立場

#### 第2回アーツなカフェ

「今から考えなくっちゃいけないこと」 平成 24 年 12 月 15 日 15:30 ~中央公民館 4 2 アト リエにて開催。

40人近い人が集まり、アーツ前橋を考えるワークショップを行いました。企画、カフェ・ショップ、広報、支援、評価といったテーマで5つのテーブルに分かれてディスカッション。それぞれのアイディア・マップを作りました。







付箋にキーワードがいくつも・・・・

の人たちが、意見を聞き合って仲間として作って いく。それは、貴重な体験でした。

辻:運営検討委員会の資料を作っていたときは、 こんなにいい美術館をつくっているということを 知ってほしい、という思いが強かった。その中で も市民参加ということをうたっていたし、自分も 市民参加の重要性は分かっているつもりでいたん です。でも、実際に多くの人の意見を聞いて行く 中で、本当の意味で、市民参加の重要性を改めて 感じましたね。いっしょにつくっていくものなん だなと、感じています。



第3回のカフェには約100人の市民が参加。





秋のグランドオープンの前に、プレオープンでさまざまなイベン

トを開催していく予定。 #buncafe

MaeBunsul 2012-10-21 14:39:37

運営検討委員会と文化推進会議



最後に各テーブルの代表が皆にプレゼン テーションを行いました。

山本: この1年で、本当にいろんな人と知り合う んてことができました。そして、自分が体験したこと 福西を、多くの人に体験してほしいと思うようになっ おまた。今日もまた、食事もせずに、みんなでこんな た。

風に熱い思いを語り合っている。本当に真剣に市 民が向き合っている場を、公務員はなかなか体験 する機会がないんです。自分の中で、苦労だけで なく、この状況を楽しんでいる部分があったこと も確かですね。本当にみなさんに感謝です、って なんだかもう終わりみたいですが、開館の10月 まで、実はこれからがいよいよ正念場って感じな んですよね! (一同笑)

**福西:**今日は本当にお忙しい中、遅くまで貴重なお話をお聞かせくださり、ありがとうございました

#### 第3回アーツなカフェ

「アーツなトーク 市長とアーツをアツく語る。」平成 25年2月25日19:00~中央公民館51/52学習室に て開催。

山本龍市長・入内島道隆(ぐんま CSO 代表)・住友 文彦 館長予定者の鼎談が行われました。ファシリ テーターを中島信之委員がつとめました。行政と町 おこしと芸術文化の接点が、さまざまな角度から意 見交換され、参加者からも熱い議論が交わされま した。当日の模様は、Ustream で中継されました。 (http://www.ustream.tv/channel/ 前橋文化推進会 議)







プレイベント vo | .18 作品展示「イメージのさざ波」

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵
1	ペ・ヨンファン	福島のため息 Sigh of Fukushima	H24	2チャンネルビデオ、サウンド	15.分55秒	作家蔵。
. 2	ペ・ヨンファン	Object Sigh of Fukushima 1	H24 ·	福島のがれき、ギター、パステル	100.0 × 36.5 × 10.5cm	作家蔵
3	ペ・ヨンファン	Object Sigh of Fukushima 2	H24	福島のがれき、ギター、パステル	57.5 × 19.5 × 7.0cm	作家蔵
4	ヴォルス	燃えさかる炉		ドライポイント、エングレーヴィング・紙	27.4 × 17.8cm	個人蔵
. 5	ヴォルス	顔、ブリアン「クジラの町」のために		ドライポイント、エングレーヴィング・紙	11.9 × 9.6cm	個人蔵
6	アンリ・ミショー	無題	S42	リトグラフ・紙	25.0 × 21.0cm	個人蔵。
. 7	アンリ・ミショー	無題		リトグラフ・紙	25.5 × 20.5cm	個人蔵
8	瀧口修造	無題	S46	デカルコマニー・紙	19.5 × 20.7cm	個人蔵
9	砂盃富男	海底のお子僧様	H 2	デカルコマニー・紙	25.0 × 18.5cm	個人蔵
. 10	元永定正	作品	S41	油彩·紙	33.0 × 24.0cm	個人蔵

## プレイベント vo 1.21 前橋市収蔵美術展 はじまる道

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0					
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ
1	倉田角次	春の玉川上水	H7	油彩・カンヴァス	91.0 × 116.5cm
. 2	笠木実	演奏者	Н5 .	油彩・カンヴァス	145.2 × 97.0cm
3	近藤嘉男	タンプル区の老婆	S40	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5cm
4	横堀角次郎	代々木風景	S13	油彩・カンヴァス	45.5 × 34.0cm
. 5	清水刀根	二人		油彩・カンヴァス	61.0 × 50.5cm
6	久保繁造	カサブランカ	S51	油彩・カンヴァス	38.2 × 45.4cm
. 7	深谷徹	アルカンタラー橋		油彩・カンヴァス	127.8 × 128.0cm
8	福田貂太郎	晩夏静寂	S36	油彩・カンヴァス	91.0 × 73.0cm
9	清水刀根	舗道	S .8	油彩・カンヴァス	162.0 × 131.0cm



#### ●アーツ前橋

- ・施設内覧会
- ・内覧イベント 『Walk あるくことからはじまること』

## ❷前橋プラザ元気 21

#### [中央公民館]

- ・アートスクールD・E・S
- ・運営検討委員会 タウンミーティング
- ・文化推進会議 アーツなカフェ
- [にぎわいホール] ・アートコンペライブ

## ❸前橋文学館

・アートスクールDコース

## ❷ミニギャラリー千代田

- ・アートスクールEコース
- イメージのさざ波
- ・はじまる道
- ・絵画×音楽
- ・マチリアルプロジェクト

# ●前橋中央通り、

- 6弁天通りアーケード
- ・フラッグアート

#### ❷国際交流広場

・絵画×音楽

## ❸前橋市役所

- ダンスで時計。
- ・運営検討委員会

## . ❷部室

・マチリアルプロジェクト

## **●**群馬県立近代美術館

・アートスクールSコース

●『記事名』/掲載日 [新聞名]/頁



- 『美術館事業見直し 前橋市 学芸員の採用中止』2012.03.01 [上毛新聞] / 1
- ●『前橋市立美術館の学芸員採用を中止 新市長が見直し公約』 2012.03.02 [産経新聞] / 21
- ●『学芸員採用を中止 前橋市立美術館 山本市長公約に沿い』 2012.03.02 [毎日新聞] / 25
- 『学芸員の採用 前橋市が中止』2021:03.02 [読売新聞] / 30
- ■『美術館問題考えよう 前橋市長が見直し明言 9 日に市民集会』2012.03.07 [上毛新聞] / 20
- ●『美術館のあり方 市民が考える集い 前橋できょう開催』 2021.03.09 [読売新聞] / 34
- 『本当に必要なアート拠点は 美術館見直しで市民集会』 2012.03.10 [上毛新聞] / 26
- ●『美術館工事中断も示唆 前橋市長が記者会見』2012.03.14 「朝日新聞」 / 29
- 『前橋の美術館構想、工事変更の可能性』2012.03.14 [上毛新聞] / 1
- 『市美術館を演劇系拠点に 前橋市長が各地視察へ 工事中断し変更検討』2012.03.15 [東京新聞] / 24
- ●『古新聞とガムテープで彫刻作り 前橋城南小3年と県立聾学校3年の84人』2012.03,16 [朝日ぐんま] / 3
- 『清掃工場や美術館 担当部署を改編 前橋市が機構改革』 2012.03.17 [上毛新聞] / 20
- ■『美術館に市民運営委利用者目線で見直し』2012.03.22 [上 毛新聞] / 1
- 『前橋市長が工事継続明言 市民中心の検討委設置へ』 2012.03.22 [読売新聞] / 33
- ●『前橋市長が軌道修正「一定の美術館機能あるべきだ」』 2012.03.22 [朝日新聞] / 29
- ■『文化拠点について前橋で意見交換会』2012.03.23 [朝日 ぐんま] /3
- 『県都の課題 どう指導 就任1ヶ月 山本・前橋市長に聞く』 2012.03.28 [朝日新聞] / 29
- ●『前橋市美術館工事費 1400 万円減額 見直しは施設運営 建設は当初計画通り』2012.04.17 [上毛新聞] / 1
- ■『前橋市美術館今年度は困難 市会常任委に説明工事費 1400 万円減』2012.04.17 [読売新聞] / 33
- 『前橋・美術館 工事契約一部変更 再検討で 1400 万円削減』 2012.04.17 [毎日新聞] / 23
- ●『上州 銀幕事情』2012.04.19 [産経新聞] / 23
- ●『前橋市美術館の運用市民検討委が初会合』2012.04.27 [読売新聞] / 33
- ■『「文化伝える作品を」前橋市美術館第1回検討委』 2012.04.27 「上毛新聞」 / 24
- ●『市立美術館の運営検討委初会合 前橋』2012.04.27 [毎日

#### 新聞] / 23

- ●『冬風夏雷 美術館』2012.04.29 [毎日新聞] / 26
- ●『前橋市 美術館構想見直しへ 運営検討委が初会合』 2012.05.01 [建設工業新聞] / 5
- ●『前橋市の芸術文化施設 市民が運営方法検討』2012.05.11 [朝日ぐんま] / 3
- ●『美術館構想で市民から意見 前橋であす公聴会』 2012.06.15 [上毛新聞] / 21
- ●『答弁に苦しむ委員も 前橋・芸術文化施設 運営見直し公聴会』 2012.06.17 [上毛新聞] / 23
- 『「地域活性化の場に」前橋市美術館構想で公聴会』 2012.06.17「上毛新聞」/20
- 『論点 オピニオン 1000 前橋市美術館構想』2012.06.20 [上 毛新聞] / 11
- ●『三山春秋』2012.06.24 [上毛新聞] / 1
- ●『名称は「アーツ前橋」市美術館検討委 市民組織設置を提言』 2012.06.26 [上毛新聞] / 18
- 『芸術文化施設「アーツ前橋」に 検討委が来月提言』 2012.06.26 「毎日新聞」 / 23
- 『「多様な文化の場」に 前橋市検討委 改装中の公共施設』 2012.06.26 [東京新聞] / 24
- 『前橋市美術館問題 検討委が市長に提言』2012.07.06 [産 経新聞] / 25
- ■『前橋市美術館 運営見直し提言 市民企画委求める』 2012.07.06「毎日新聞] / 23
- ●『市民参加の運営提言 前橋市美術館 検討委、市長に』 2012.07.06 [朝日新聞] / 27
- 『市美術館「アーツ前橋」検討委提言 市民参加の企画委も』 2012.07.06 [読売新聞] / 31
- ●『前橋市美術館 市民参加を提言 市長に施設検討委』 2012.07:06 [上毛新聞] / 22
- ●『企画運営に関わる市民組織の設置を 館名「アーツ前橋」など7項目提言』2012.07.06 [朝日ぐんま] / 22
- 『館長 市民会議で検討へ 前橋市の芸術文化施設』 2012.07.14 [東京新聞] / 22
- 『市長「市民自治」と自賛 既存美術館の形態を批判』 2012.07.14 [産経新聞] / 22
- ●『三山春秋』2012.08.19 [上毛新聞] / 1
- ●『自分色に街染めて 前橋の市民団体が企画 1 日にオープンマイク』2012.08.29 [上毛新聞] / 16
- ●『アートコンペライブ 2012 公募』 2012.09.04 [朝日新聞] / 28
- 『前橋市の芸術文化施設名 名称は「アーツ前橋」来年 10 月 開館』2012.09.29 [上毛新聞] / 24
- ■『芸術文化施設「アーツ前橋」に 市が発表』2012.09.29 [毎日新聞] / 25

- 『前橋市美術館「アーツ前橋」名称正式決定』2012.10.03 「朝日新聞」/28
- ■『美術館 市民サポーター アーツ前橋来月から講習会』 2012.10.16 [読売新聞] / 34
- ●『「アーツ前橋」について語ろう! 市民参加型のトーク会「アーツなカフェ」』2012.10.19 [朝日ぐんま]
- ●『市民参加の事業を あす市中央公民館「アーツ前橋」を考える』2012.10.19 [上毛新聞] / 21
- ●『市民と初の意見交換「アーツ前橋」巡る文化推進会議』 2012.10.22「朝日新聞」/ 29
- ●『県内外から誘客を 市民 50 人が意見交換 1 年後開館「アーツ前橋」。2012.10.22 [上毛新聞] / 16
- 『「アーツ前橋」の学芸員 2 人公募 市、任期は 5 年』 2012.10.24 [上毛新聞] / 20
- ●『「アーツ前橋」学芸員募集』2012.11.01 [読売新聞] / 33
- ●『被災地の映像作品に韓国人作家ぺさん 前橋で日本初公開』 2012.11.25 [上毛新聞] / 16
- 『中心街文化で元気に 芸術団体が意見交換会 空き店舗に拠点』2012.11.28 [上毛新聞] / 16
- ●『現代アート作家発掘 前橋で 2 日コンペライブ 28 点を公開 審査』2012.11.29 [上毛新聞] / 16
- ●『アーツ前橋ロゴ完成 前と M モチーフ きょう看板お披露目』 2012.12.01 「上毛新聞」 / 22
- ●『アーツ前橋 ロゴ看板披露』2012.12.02 [読売新聞] / 35
- ●『アーツ前橋 黄金の輝き』2012.12.02 「上毛新聞] / 1
- ●『前橋アートコンペライブ 2012 林さん(前橋出身)グランプリ』2012.12.03 [上毛新聞] /
- ●『開館控え 彩り鮮やか「アーツ前橋」』2012.12.13 [産経新聞] / 27
- ●『来年 10 月開館「待ち遠しい」アーツ前橋で内覧会』 2012:12:16 [上毛新聞] / 22
- ●『オピニオン 21 芸術文化がもたらすもの 交流生み地域を豊かに』2012.12.16 [上毛新聞] / 15
- 『アーツ前橋 活用を カフェで意見交換 部活動、早朝サービス』2012:12:19 [上毛新聞] / 22
- ●『きょうから一般に公開 美術館・アーツ前橋』2012.12.21 [毎日新聞] / 23
- ●『アーツ前橋で施設公開 あすまで 来年 10 月開館予定』 2012.12.22 [上毛新聞] / 2
- 『「アーツ前橋」で見学会 エスカレーター跡、吹き抜けに』 2012.12.22 [読売新聞] / 30
- 『「一足早く見たい」来場者でにぎわう アーツ前橋きょうまで公開』2012.12.23 [朝日新聞] / 28
- 『芸術文化施設 市民参画組織で多様な文化事業』2013.01.05 [上毛新聞] / 13
- ●『多様な文化芸術の拠点に「アーツ前橋」が完成 10月に

- もオープン』2013.01.16 [東京新聞] / 24
- 『アートコンペ入賞作品 作品展 立体や平面など 7 点』 2013.01.18 [朝日ぐんま] / 2
- ●『上州 ひと 交差点 前橋アートコンペライブのグランプリ 獲得 林麻依子さん』2013.1.19 [朝日新聞] / 28
- ●『「アーツ」誕生 ダンスで彩る 前橋・創作イベント 10 月開館時に公開』2013.01.20 [土毛新聞] / 28
- ●『館長に住友さん アーツ前橋』2013.01.24 [上毛新聞] / 20
- ●『アーツ前橋」館長に住友氏 学芸員として開設準備担当』 2013.01.24 「読売新聞」 / 31
- ●『「アーツ前橋」館長に住友氏 前橋市の嘱託学芸員』 2012.01.25 [朝日新聞] / 29
- 『アーツ前橋 館長に住友氏 前橋市嘱託学芸員』2013.01.28 「東京新聞」/ 22
- ●『「対話型の美術館」構想アーツ前橋館長 住友文彦さん (41)』2013.01.31 [毎日新聞] / 25
- ●『初代館長に住友文彦さん(41)が内定市民に愛される文 化施設へ』2013.02.08 [朝日ぐんま] / 3
- ●『視点 オピニオン 21 住友文彦 社会に貢献する力』 2013.02.09 [上毛新聞] / 15
- ●『必要とされる美術館に アーツ前橋の館長に内定した住友 文彦さん』2013.02.10 [読売新聞] / 13
- ●『前橋市=アーツ前橋プレイベント「はじまる道」』 2013.02.19 [毎日新聞] / 23
- ●『アーツ前橋を考える 第3回アーツなカフェ開催』 2013.02.25 [上毛新聞] / 16
- ●『「アーツ」で地域に自信 前橋 新館長ら意見交換』 2013.02.27 [上毛新聞] / 24
- ●『展示 前橋市収蔵美術展「はじまる道」』2013.03.08 [朝日ぐんま] / 3
- ●『前橋 気軽にアートしよう アーツでワークショップ』 2013.03.14 [上毛新聞] / 19
- ●『アーツ前橋 市長や新館長らが白熱トーク』2013.03.15 [朝日ぐんま] / 3
- ●『アーツ前橋 体感して.23,24 日に内覧イベント』 2013.03.20 [上毛新聞] / 16
- ●『アーツの魅力体感 内覧会に展示、ダンス、新聞紙や野菜で作品』2013.03.24 [上毛新聞] / 16
- ●『アーツ前橋 初の館内イベント 開館前に芸術・創作楽しむ』 2013.03.24 [朝日新聞] / 29
- 『ダンスや演奏 プレ催し楽しむ 10 月開館アーツ前橋』 2013.03.24 [東京新聞] / 24
- ●『アーツ前橋で体験イベント』2013.03.24 [読売新聞] / 37

94



## プレイベント参加者・来場者数

	種別	タイトル	参加者数
No.17	スクール	アートスクール D マエバシ文化発信局	112
. No.17,	スクール	アートスクール E 前橋文化年表プロジェクト	. 55
No.17	スクール	アートスクール S たのしむ ささえる ひろがる	. 70
No.18	作品展示	イメージのさざ波	239
No.18	トーク	ペ・ヨンファンによるアーティストトーク	37
No.19	地域アートプロジェクト	マチリアルプロジェクト	40
, No.20,	ワークショップ	ダンスで時計 時を告げるダンスをつくろう!	. 22
No.21	作品展示	前橋市収蔵美術展「はじまる道」	434
No.22	ワークショップ	絵画×音楽	· 31
No.23	イベント	内覧イベント「WALK あるくことからはじまること」	2,400
前橋文化デザイン会議	作品展示	フラッグアート	284
前橋文化デザイン会議	公開コンペ	アートコンペライブ 2012 公開審査	,160
前橋文化デザイン会議	作品展示	アートコンペライブ 2012 入賞作品展示	195
	・イベント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アーツ前橋施設見学会	385
アーツなカフェ第 1 回	文化推進会議	アーツ前橋って、なんなん?	50
アーツなカフェ第 2 回	文化推進会議	今から考えなくっちゃいけないこと	40
アーツなカフェ第 3 回	文化推進会議	「アーツなトーク」市長とアーツをアツく語る。	.100

**# 4.654** 

\*プレイベント等の実施にあたっては、ここに記載しきれなかったお名前も含めて多くの方々のご協力をいただきました。また事業実施については、 文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブおよび財団法人地域創造に助成いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

相原珠貴	奥野将徳	小出和彦	柴田和花子	都丸将誠	廣瀬ゆいか
秋田望	奥山弥奈美	高坂麻子	清水愛美	長井美優	深須砂里
秋山恵子	忍田光慧	越川さくら	清水那奈美	長岡蓮	深町秀造
新井和枝	小野琴音	児島俊光	清水唯依	中澤多恵子	深町和佳子
新井奏絵	小見純一	小竹裕人	下田知穂	中島隆宏	福島小百合
新井葉月	粕川実沙	後藤朋美	新堀真都	中島信之	福田衣里
新井隆人	片倉正彦	小根山大樹	鈴木優理子	中島美江子	福留麻里
荒木聡志	片山萌絵	小林桜子	須田はつえ	中田煌河	福西敏宏
飯野想真	加藤秀郎	小林幹郎	砂田朋哉	中台心泉	福西みゆき
飯島翔	加藤由紀	小林桜子	関志津子	中台澄之	藤浩志
五十嵐倫太郎	金井佐和子	小林豊	関口正洋	中村詩織	藤生音人
井口さおり	金井訓志	小林茉椰	関根貴之	中村ひろみ	藤澤陽
砂盃次代	金井善太郎	駒井香乃葉	関根美桜	中村茉由	富士元悠大
石坂亥士	金子桜	駒井麻莉乃	関根留美子	中山紗菜	古田悟 .
伊藤達矢	金田佳子	小松知寛	添川秀樹	成澤みずき	ペ・ヨンファン
稲庭彩和子	金野睦美	近藤愛子	染谷滋	新鋪美佳	穂苅実生
井上遥翔	唐澤太郎	近藤昭彦	高木直幸	西尚子	星野学
今井亜花莉	川瀬友樹代	近藤美智子	髙他陽介	西澤明洋	細井理美
今井啓嗣	川鍋正規	斎田愛梨	高橋啓祐	西田真	堀口美奈子
岩崎隆	木暮伸也	サカイ優佳子	高比良春菜	西田怜	前橋中心
岩佐可奈子	木暮一太	酒井さくら	髙嶺直子	西林乗宣	商店街協同組合
岩崎海翔	木暮夏美	酒井健志	高山昌史	西村圭吾	前橋ボランティア 連絡会
植木修	岸さくら	酒井敦朗 .	高山絵里。	西本邦雄	前原亜紀・
内田陽晴	喜多村徹雄	酒井瑠奈	武井宏彰	野口朱華	真下英莉奈
内田琴子	櫛田寛保 .	坂川善樹	竹内躍人	野沢藍子	松井淳
生方葵	楠本なずな	坂川陽彩	田中優里	野村誠	松本勇馬
江口宏志	國崎理嘉	坂川雷武	田中優空	野本文幸	間々田久渚
江原真由	熊谷ゆう子	坂本敏	田平恵美	相原理子	丸山典子
圓城寺敬子	熊澤未希	坂本怜央	田村さくら	萩原夕貴	丸山妙美
遠藤尚樹	栗田萌	佐川愛実	田村もも・	橋本薫	三木かほり
大出妃織	栗原啓祥	佐川愛実	田村利奈	蓮池俊光	水頭あゆみ
大川桜子。	栗原沙苗	櫻井杏樹	チョ・ムンジュ	長谷川恵理子	水谷晃
大澤遼輔	栗原千代子	櫻井泰輔	土屋葵乃	長谷川和俊	水谷俊博
大塚直希	黒岩瑞貴	櫻澤雅子	寺内愛乃	長谷川凌也	水原英里子
大柳俊彦	黒沢伸	佐々木俊尚	寺澤徹	林みづき	三田成美
岡正己		笹木理恵	寺澤由樹	原房子	三友千春
岡崎寿一	郡司明子	佐々木巧海	寺澤知実	原田杏里	<b>峯岸陽</b>
岡田達郎	郡司厚太	貞松保範	時田佳奈	原田侑里	宮川紗織
岡田倫之介	群馬県立近代 美術館ボランティア	佐藤琳奈	時田幸奈。	尾藤礼奈	宮﨑咲桜里
岡野かおり	見城久美子	塩崎政江	戸所亨輔	平田悠	宮谷奈津子
岡部純才	小阿瀬直	品田祐也	戸所琴心	廣瀬えみか	向田有希。
荻原林太郎	小池真紀	篠原輝充	殿岡渉	廣瀬ののか	武者桃子

前橋市における美術館構想 プレイベントの記録 2012・4 — 13・3

平成25年3月31日 発行

編集●アーツ前橋〈2012・4 — 13・3 記録〉編集プロジェクト

発行●前橋市文化国際課芸術文化推進室/アーツ前橋 〒 371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16 tel.027-230-1144

撮影●木暮伸也/遠藤尚樹/岡野かおり/ほか

\*本書の全部又は一部を無断で複製(コピー)することは著作権法上の例外を除き、禁じられています。





